

授業科目	倫理学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 倫理学の基本的な考え方が理解できる。					
2. 生命倫理について学び、倫理的課題が考えられる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	序章 なぜ倫理を学ぶのか 第1章 倫理学の基本的な考え方 1. 倫理とはなにか 2. 倫理理論 3. 他者理解と対話のための理論				講 義
2	第2章 生命倫理 1. 生命倫理とはなにか 2. 生命倫理の理論 3. 生命倫理と看護職の責務 (インフォームドコンセント、守秘義務と個人情報保護)				講 義
3	第3章 性と生殖の生命倫理 1. 性の生命倫理 2. 生殖の生命倫理 3. 生殖に対する医療的介入の課題				講 義
4					
5	第4章 死の生命倫理 1. 死について 2. 死と医療 3. 死についての生命倫理の課題				講 義
6					
7	第5章 先端医療と制度をめぐる生命倫理 1. 移植医療と生命倫理の課題 2. 再生医療と生命倫理の課題 3. 遺伝子医療と生命倫理の課題				講 義
	筆記試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
別巻 看護倫理 医学書院				授業の中で紹介する	
【 評価方法 】					
・筆記試験					

授業科目	生物学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 生物学の基礎を理解する。					
2. 生命体の構造と機能、生命維持のしくみ、原始的な生物、細胞の増殖、生殖と発生、遺伝情報の伝達と発現、生命の進化、及び環境に対する生命の反応と調節機能等を詳しく学ぶ。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	単位、顕微鏡、細胞膜、小胞体、リボソーム				講義
2	リボソーム、ゴルジ体、微小管、Microfilament				講義
3	Microfilament、ミトコンドリア、動物細胞の被膜				講義
4	動物細胞の被膜、細胞の化学成分、水、膜透過				講義
5	膜透過、Membrane flow、原核細胞				講義
6	ウイルス、ウイロイド、バクテリオファージ、生体内の化学反応の特徴				講義
7	炭素同化(光合成)、窒素同化				講義
8	異化作用、体細胞分裂、減数分裂				講義
9	生殖、精子形成				講義
10	卵子形成、受精				講義
11	核酸の構造、DNAは遺伝物質である、DNAの構造、DNAの複製				講義
12	Okazaki fragmentの合成、DNA変異の修復合成、転写、				講義
13	RNA splicing、翻訳、生物の系統				講義
14	ヒト、現代の進化学、水・塩分環境の変化に対する対応、恒常性の維持				講義
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院				講師が作成した資料を配布する。	
【評価方法】					
100点満点のペーパーテスト					

授業科目	化学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 生体を構成する化学物質と化学反応について理解する。					
2. 日常生活に関連する化合物の性質や反応機構を理解し、生活現象を科学的に分析できる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	講義内容の紹介・化学とは・化学は暗記もの？				講 義
2	原子の構造 原子はどれくらい小さいの？原子をみることができるの？				講 義
3	周期律と電子配置・周期律の発見者は誰？・元素の発見物語				講 義
4	周期表を見てみよう・元素(原子)の分類法				講 義
5	原子量・分子量って何？モルはなぜ必要？・化学式の話・濃度の話				講 義
6	化学結合(イオン結合・共有結合・配位結合)				講 義
7	酸とアルカリ(pHとは、なぜpOHはないの？) 酸性食品とアルカリ性食品)				講 義
8	物質の三態(気体・液体・固体)・液体と溶液の違い・気体の法則				講 義
9	酸化と還元・電池って何？・電気ので物質を取り出す				講 義
10	化学平衡・溶解度・個体に気体が溶ける？				講 義
11	有機化学入門① 化学式構造式の書き方・命名法のルール				講 義
12	有機化学入門② 化合物の構造・異性体・光学活性体				講 義
13	看護に重要な無機化合物と有機化合物の話				講 義
14	ありふれた化合物と奇妙な化合物の話				講 義
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 基礎分野 化学 医学書院				講義時に指示する。	
【 評価方法 】					
試験					

授業科目	論理的思考	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 正しく日本語を用いて論理的に思考することができる。					
2. 上記のスキルを働く現場に活かして円滑なコミュニケーションをはかることができる。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	ガイダンス(授業オリエンテーションを含む)				講義
2	挨拶をする、自己紹介をする(ソーシャルスキル編 第1章)				講義
3	正しい日本語を使う(スタディスキル編 第1章)				講義
4	敬語を使う(スタディスキル編 第2章)				講義
5	話すスキルと聴くスキル(ソーシャルスキル編 第2章)				講義
6	メモをとる(スタディスキル編 第3章)				講義
7	上手に断る(ソーシャルスキル編 第3章)				講義
8	説明する・発表する(スタディスキル編 第4章)				講義
9	電話をする(スタディスキル編 第5章)				講義
10	感情をコントロールするスキル(ソーシャルスキル編 第4章)				講義
11	メールを書く(スタディスキル編 第6章)				講義
12	手紙を書く(スタディスキル編 第7章)				講義
13	レポートを書く(1):内容編(スタディスキル編 第8章)				講義
14	レポートを書く(2):表現編(スタディスキル編 第9章)				講義
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
『看護系学生のための日本語表現トレーニング』 (野呂幾久子・渡辺弥生・味木由佳 編著、三省堂、2013年刊)					
【評価方法】					
毎回の授業でのレポート(45点)、終了試験(55点)の合計点(100点)による。					

授業科目	討議法	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 討議法(カンファレンス)の必要性を理解する。					
2. 討議法(カンファレンス)に必要なスキルを知り、使えるようになる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	オリエンテーション				講義・ビデオ視聴
2	討議法、カンファレンスとは				講義・演習
3	看護におけるカンファレンス				講義・演習
4	カンファレンスの基本要素①				講義
5	カンファレンスの基本要素②				講義・演習
6	カンファレンスの運営①				講義・演習
7	カンファレンスの運営②				講義・演習
8	カンファレンスの選択				講義・演習
9	学生のためのカンファレンス オリエンテーション				講義
10	学生のためのカンファレンス①				演習
11	学生のためのカンファレンス②				演習
12	学生のためのカンファレンス③				演習
13	学生のためのカンファレンス④				演習
14	学生のためのカンファレンス⑤				演習
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
看護カンファレンス 第3版 医学書院				こころが晴れるノート:創元社 大野裕著	
【 評価方法 】					
試験					

授業科目	国文学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 多くの作品を読むことにより、読解力を高め、作品を味わうことができる。					
2. 文学作品に登場する人物の心理を読み解き、人間理解を深める。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	一段と伊勢物語概説 テキスト 資料・業平伝				講義
2	物語の時代背景を知る まめ男 四段 本事詩との関係				講義
3	五段 および一二三 歌徳説話				講義
4	六段 古今集との関係				講義
5	九段 東下りは史実か？				講義
6	二三段				講義
7	二四段 情勢にとっての7選択 六〇段・六二段				講義
8	二十五段 小町との関係 四〇段 純愛とその後 四一段 一段との関係				講義
9	六九段 狩の使と中国文学				講義
10	八二段・八三段 業平と惟高親玉				講義
11	八一段・九〇段 権力者との関係				講義
12	八〇段・一六段 親子の情愛 及び義兄弟への思いやり				講義
13	一一四段・一一五段 他人歌の利用				講義
14	一〇七段・二二段・一九段				講義
15	一二五段 確認テスト				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
解説 百人一首 筑摩書房				『伊勢物語全読解』(片桐洋一・和泉書院)など、多数。授業時に紹介します。	
【評価方法】					
授業時の感想と質問(4割)、期末試験(6割)					

授業科目	英語 I (英会話)	時期	第1学年 第1・2学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療英語を覚える。					
2. ナースと患者の医療現場での英語による会話を疑似体験する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	Unit 1 受付 外来診療手続き Unit 2 初診				演習
2					
3					
4	Unit 3 病状聴取 Unit 4 院内案内				演習
5					
6					
7	Unit 6 入院聴取 Unit 7 怪我と痛みの聴取				演習
8					
9					
10	Unit 8 血液採取 Unit 9 再診予約				演習
11					
12					
13	Unit 10 服薬説明 Unit 11 術前術後説明				演習
14					
15					
16	Unit 12 日常看護 Unit 11 救命救急				演習
17					
18					
19	Unit 14 各種検査 Unit 15 退院説明				演習
20					
21					
22	期末テスト ペアによる会話暗唱				
23					
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
クリスティーンのレベルアップ看護英会話 医学書院					
【 評価方法 】					
1. 単語テスト 30%					
2. 各Unitまとめテスト 20%					
3. 期末テスト 50%					

授業科目	英語II(文献読解)	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 1年生で学習した医療英語を多用している英文を読み込む。					
2. 今日の個人、地球規模の健康問題に触れる。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	Sense of Taste and Eating Habits 購読			演習	
2	Dangers of Internet Addiction 購読			演習	
3	Global Water Problem購読			演習	
4	Global Cooperation to Prevent Dementia 購読			演習	
5	Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT 購読			演習	
6	Ethical Implications of Prenatal Testing 購読			演習	
7	Preventing Child Abuse 購読			演習	
【使用テキスト】 毎回プリントを配布します。				【参考文献・紹介文献】	
【評価方法】 各トピック終了の次の週に復習テストを実施。 すべての復習テストの平均点で評価します。					

授業科目	発達心理学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 発達の共通した仕組みと発達段階の特徴を理解する。					
2. 発達の基本的な理論とさまざまな要因を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	発達とは1(発達の定義)				講 義
2	発達とは2(発達の共通性)				講 義
3	ゲゼルの理論(成熟と発達診断)				講 義
4	エリクソンの理論(自我の発達)				講 義
5	ピアジェの理論(認知発達)				講 義
6	ボウルヴィの理論(愛着の発達)				講 義
7	ハヴィガーストの理論(発達課題)				講 義
8	胎児期の発達1				講 義
9	胎児期の発達2				講 義
10	言語の発達1				講 義
11	言語の発達2				講 義
12	知的発達				講 義
13	対人関係の発達				講 義
14	発達の評価				講 義
15	試験				筆記試験
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学 医歯薬出版				必要に応じて授業内で紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	生活科学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 人間の生活基盤である住居と被服を科学的にとらえ、これらが人間の健康に及ぼす影響について理解する。					
2. 住居や被服に伴う現代的課題を明らかにし、自分の生活を通してそれらの問題への対応を考える。					
3. 生活を科学的な見方で自分の生活を再検討できる。					
回数	授業内容				授業方法
1	生活科学とは何か 関連領域 グループワークウォーミングアップ				講義・演習
2	人間と家族 人間発達の捉え方 現代・世界の家族				講義・演習
3	暮らしと技術 ユニバーサルデザインと技術				講義・演習
4	暮らしと環境 自然災害と暮らし				講義・演習
5	暮らしと様式 衣生活の変遷				講義・演習
6	暮らしと様式 みたこともない服のデザイン アイデアの検討				講義・演習
7	暮らしと様式 みたこともない服のデザイン 作成作業				講義・演習
8	暮らしと様式 みたこともない服のデザイン 服の完成・発表準備				講義・演習
9	暮らしと様式 みたこともない服のデザイン 服の完成・発表				講義・演習
10	暮らしの技術 ユニバーサルデザインと技術				講義・演習
11	暮らしと生活 消費生活と法律				講義・演習
12	暮らしと住まい 住宅展示場見学1				講義・演習
13	暮らしと住まい 住宅展示場見学2				講義・演習
14	暮らしと住まい 住生活基本計画とセーフティネット				講義・演習
15	終了試験				
【使用テキスト】 生活科学 第6版 オーム社				【参考文献・紹介文献】	
【評価方法】 グループワーク成果40% 試験60%					

授業科目	社会学	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
社会情勢の変化や人びとの価値観の多様化、社会システムの変容などを背景に、人びとの健康・生活にさまざまな課題や問題が生じています。現代日本のさまざまな「社会問題」を切り口に、社会のしくみや成り立ちを理解できるようになるための知的基盤づくりにとりくみます。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	オリエンテーション——社会学と何か？				講義
2	社会学／社会問題とは何か？				講義
3	「被災する」とはどういうことか？(災害の社会学)				講義
4	「原発避難」とは何か？(原発災害の社会学)				講義
5	なぜ「被災地／者」は差別されるのか？(地方の社会学)				講義
6	メディアは「本当のこと」を伝えているか？(メディアの社会学)				講義
7	人はなぜ「ひきこもり」になってしまうのか？(排除の社会学)				講義
8	日本社会はなぜ「格差・貧困」に陥ったか？(労働の社会学)				講義
9	「ブラック企業」問題はなぜ生じるか？(職場の社会学)				講義
10	「子どもの貧困」は何をもたらすか？(家族の社会学)				講義
11	「ホームレス」は自己責任か？(住まいの社会学)				講義
12	なぜ日本は「自殺」が多いのか？(自死の社会学)				講義
13	「セクシュアル・マイノリティ」とは何か？(ジェンダーの社会学)				講義
14	人びとは社会問題にどう対処しているか？(居場所づくりの社会学)				講義
15	試験＝すべてを通してのふりかえり				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
滝口克典著〈生きづらさ〉の理由(やまがた発)社会問題と市民運動の社会学 「よりみち文庫」 ※毎回、講義導入時、レポート課題などに使用します。				講義のなかでそのつど指示します。	
【評価方法】					
毎回講義後のふりかえり+試験 70% レポート(課題図書を読んでまとめる等)30%					

授業科目	人間関係論	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 人間関係を理解するための基礎となる心理学の概念を学ぶ。					
2. コミュニケーションの概念を理解し、コミュニケーションスキルを習得する。					
3. 看護ケアの提供者は人間関係をどのようにとらえればよいか理解できる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	第1章 人間関係の中の自己と他者 演習: 出会い キーワード エリクソンの発達課題 自己概念 バイアス				講義・演習
2	第2章 対人関係と役割 第3章 態度と人間関係 キーワード 認知バイアス 援助				講義・演習
3	第4章 集団と個人 第5章 コミュニケーション キーワード 集団の特性 コミュニケーションのチャネル				講義・演習
4	第6章 カウンセリングと心理療法 キーワード 支持的療法 来談者中心療法 精神力動的療法				講義・演習
5	第7章 コーチング 第8章 アサーティブコミュニケーション キーワード コーチングの原理とスキル 自己表現のタイプ アサーティブな自己表現				講義・演習
6	第9章 保健医療チームの人間関係 第10章 患者を支える人間関係 キーワード チーム チームエラー 看護理論における患者・看護師関係				講義・演習
7	第11部 家族を含めた人間関係 第12章 地域をつくる人間関係 キーワード 家族の定義 機能 ソーシャルサポート ピアサポート				講義・演習
8	筆記試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
長谷川浩: 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 第3版、 医学書院、2020.				授業の中で紹介する	
【 評価方法 】					
・毎回のリフレクションシート 35点					
・筆記試験 65点					
(教科書で学んだことを確認するための試験)					

授業科目	体育	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.個人的・集団的技能を習得すると共に、ゲームを通してチームワークを育み、チームスポーツの楽しさを実感する。					
2.運動量を確保することによって、体力向上を目指す。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	オリエンテーション:授業への諸注意・グルーピング・体ほぐし				実技
2	体ほぐし:ストレッチ体操 ゲーム(様々な運動)				実技
3	バドミントン・卓球 基本技能とルール説明				実技
4	バドミントン・卓球 基本技能(クリアー・ドライブ・スマッシュ)・ダブルスゲーム				実技
5	バドミントン・卓球 基本技能(ドロップ・ヘアピン)・ダブルスゲーム				実技
6	バドミントン・卓球 基本技能・ダブルスゲーム				実技
7	バドミントン・卓球 基本技能・ダブルスゲーム				実技
8	バスケットボール 個人技能の修得(パス・ドリブル)・ゲーム				実技
9	バスケットボール 集団技能の修得(スクエアパス)・ゲーム				実技
10	バスケットボール 個人技能の修得(2対3)・ゲーム				実技
11	バスケットボール 技能の習熟・ゲーム				実技
12	バレーボール 個人技能の修得(アンダー・オーバーパス)・ゲーム				実技
13	バレーボール 個人技能の修得(パス・サーブ)・ゲーム				実技
14	バレーボール 個人技能の修得(パス・スパイク)・ゲーム				実技
15	バレーボール 技能の習熟・ゲーム				実技
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
【 評価方法 】					
・出席を重視し、意欲・態度・習熟度を総合的に評価する					

授業科目	人体の構造と機能	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1.人体を構成するさまざまな細胞と組織、器官の基本的な構造を略図を描いて理解する。					
2.細胞、組織、器官の正常な構造と機能を理解し、様々な病態を理解するため基礎知識を身につける。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	人体を構成するいろいろな細胞の構造的特徴を略図を描いて理解する			講義	
2	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の構造的特徴と機能を理解する			講義	
3	消化器官各部の構造と機能を理解する:口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸			講義	
	消化管と付属器官:唾液腺、肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能を理解する				
4	呼吸器系:気道の粘膜上皮、気道の分岐、肺胞におけるガス交換を理解する			講義	
	循環器系:心臓の構造と機能、動脈の分岐と主要な静脈の分布を理解する				
5	循環器系:脳、消化器、皮膚の血管分布、全身リンパ系を理解する			講義	
	泌尿器系:ネフロン構造と機能、尿の産生と排尿機構の性差を理解する				
6	生殖器系:男女の内外生殖器の発生学的な相同構造を理解する			講義	
	骨格系:骨の機能的役割、骨の成長と骨密度、関節と靭帯の構造と機能				
	筋系:骨格筋の構造と機能、表情筋、咀嚼筋、呼吸筋、体幹の筋と四肢の筋				
7	神経系:中枢神経(脳と脊髄)各部位の構造と機能を理解する			講義	
	神経系:末梢神経(脳神経と脊髄神経)各神経の機能的役割を理解する				
	内分泌系:下垂体、松果体、甲状腺、副腎、膵臓、精巣と卵巣の構造と機能				
	感覚器系:感覚器としての皮膚の構造と機能、嗅覚、視覚、聴覚、味覚				
終了試験					
【使用テキスト】 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院 図解ワンポイント解剖学 人体の構造と機能 サイオ出版 ワンポイント問題集 解剖学 サイオ出版 生体のしくみ 標準テキスト第3版 新しい解剖生理 医学映像教育センター				【参考文献・紹介文献】 健康と病気のしくみがわかる 解剖生理学(島田、小林、 渡辺 監訳)、西村書店	
【評価方法】 略図を描いて解答する問題を含む筆記試験の結果をもとに評価する					

授業科目	解剖生理学 I	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 人体の構造と機能を系統的に理解する。					
1) 呼吸器系 2) 循環器系 3) 血液・造血器系					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
2	呼吸器系	内呼吸と外呼吸		講 義	①
3		呼吸器と呼吸運動 肺気量		講 義	
4		ガス交換とガスの運搬		講 義	
5		呼吸運動の調節 肺循環		講 義	
6	循環器系	心臓の構造		講 義	
7		心臓の拍出機能		講 義	
8		心電図		講 義	
9		心周期		講 義	
10		末梢循環系の構造 血液の循環の調節		講 義	
11	血液・造血器系	血液の成分と機能 造形のしくみ		講 義	
12		リンパ系の構造と機能		講 義	
13	解剖見学			演 習	
14				演 習	
15	評価				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
人体の構造と機能① 解剖生理学、呼吸器系、循環器系、血液・造血器系 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	解剖生理学Ⅱ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 人体の構造と機能を系統的に理解する。					
1) 消化器系 2) 腎・泌尿器系 3) 内分泌・代謝系 4) 女性生殖器系 5) 口腔歯科系					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	消化器系	消化器系序論		講 義	①
2		食道・胃・十二指腸の構造と機能		講 義	
3		肝・胆・膵臓の構造と機能		講 義	
4		小腸・大腸の構造と機能		講 義	
5		消化器系のまとめ		講 義	
6	腎・泌尿器系	腎臓の構造と機能		講 義	②
7		体液の調整		講 義	
8		排尿路の構造と機能 男性生殖器の構造と機能		講 義	
9	内分泌・代謝系	内分泌とホルモン		講 義	③
10		内分泌の構造と機能 全身の内分泌腺と内分泌細胞		講 義	
11		ホルモン分泌の調整		講 義	
12	女性生殖器系	女性生殖器の構造と機能		講 義	④
13		女性の生殖機能		講 義	
14	口腔歯科系	口腔の解剖		講 義	⑤
15	評価				
【 使用テキスト 】 人体の構造と機能① 解剖生理学 医学書院				【参考文献・紹介文献】	
【 評価方法 】 筆記試験(100点)					

授業科目	解剖生理学Ⅲ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	①学校長 ③副学校長 ②④⑤⑥非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 人体の構造と機能を系統的に理解する。					
1)骨・筋系 2)脳・神経系 3)感覚器系					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	骨・筋系	骨格とは 骨の連結 骨格筋		講 義	①
2		体幹の骨格と筋		講 義	
3		上肢の骨格と筋		講 義	
4		下肢の骨格と筋		講 義	
5		頭頸部の骨格と筋 筋の収縮		講 義	
6	脳・神経系	神経系の構造と機能		講 義	②
7		脊髄と脳		講 義	
8		脊髄神経と脳神経		講 義	
9		脳の高次機能		講 義	③
10		運動機能と下行伝達路		講 義	
11		感覚機能と上行伝達路		講 義	
12	感覚器系	眼の構造と視覚		講 義	④
13		耳鼻咽頭の構造と機能		講 義	⑤
14		皮膚の構造と機能		講 義	⑥
15	評価				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
人体の構造と機能1 解剖生理学、医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	生化学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.生命現象について分子レベルで理解する。					
2.生物を構成する様々な分子について理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	アミノ酸とタンパク質				講義
2	酵素①				講義
3	酵素②				講義
4	糖質の化学				講義
5	糖質の代謝				講義
6	脂質の化学				講義
7	脂質の代謝				講義
8	アミノ酸の代謝				講義
9	核酸の役割				講義
10	遺伝病と遺伝子工学				講義
11	体液				講義
12	ホルモン				講義
13	ビタミン				講義
14	恒常性と免疫				講義
15	終了試験				筆記試験
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
わかりやすい生化学第5版 ヌーヴェルヒロカワ					
【 評価方法 】					
試験を行い、100点満点で採点する。60点以上を合格とする。					

授業科目	栄養学	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 人間の健康を維持するために必要な食生活と栄養のあり方について理解する。					
2. 人間のライフサイクルと食との関わりを理解する。					
3. 疾病と栄養の関係を理解し、その人らしい食生活を送るために必要な知識と技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	山形県の状況 栄養と栄養素 糖質の種類について			講 義	
2	多糖質の種類と働き 脂質の種類と働き			講 義	
3	タンパク質の種類と働き			講 義	
4	ミネラル類の種類と働き			講 義	
5	ビタミンの種類と働き 水の代謝 食物繊維の働き			講 義	
6	エネルギー代謝(食品のエネルギー・基礎代謝と身体活動) 食事摂取基準			講 義	
7	栄養素の消化と吸収 栄養状態の評価について			講 義・演 習	
8	ライフサイクルにおける栄養 栄養ケア・マネジメント			講 義	
9	ライフサイクルにおける栄養 栄養ケア・マネジメント			講 義・演 習	
10	臨床栄養とは・病院食の意義および食形態			講 義	
11	臨床栄養(高血圧等循環器および胃等消化器の疾病と食事療法)			講 義	
12	同上(肝臓病・脂質異常症と食事療法)			講 義	
13	同上(糖尿病と食事療法)			講 義	
14	同上(糖尿病食品交換表の使い方)			講 義・演 習	
15	同上(腎臓病と食事療法)			講 義	
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
①系統別看護講座 栄養学 人体の構造と機能(医学書院)					
②同上 栄養食事療法(医学書院)					
③糖尿病食品交換表(糖尿病学会)					
④その他講師準備の資料による					
【 評価方法 】筆記試験					

授業科目	微生物学	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 微生物の種類と特徴を理解する。					
2. 微生物が生体に及ぼす影響と生体の防御反応について理解する。					
3. 感染症の予防と治療法について理解する。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	感染症を起こす病原体の種類 (寄生虫、真菌、細菌、ウイルス)			講義	
2	感染の成立と経過 (病原体と宿主の関係、感染・発病を決める因子)			講義	
3	感染症発生の三大要因 (感染源、感染経路、感受性宿主)			講義	
4	感染症の現状 (新興・再興感染症、人獣共通感染症、院内感染症)			講義	
5	細菌の形態・構造と分類			講義	
6	細菌の生活現象 (栄養と代謝、発育・増殖と環境の影響)			講義	
7	細菌の病原性 (組織への侵入と外毒素・内毒素)			講義	
8	細菌感染症の治療と予防 (抗菌薬と薬剤耐性菌)			講義	
9	ウイルスの形態・構造と分類			講義	
10	ウイルスの感染と増殖			講義	
11	ウイルスの病原性 (潜伏感染と慢性感染、血液媒介感染)			講義	
12	ウイルス感染症の治療と予防			講義	
13	感染症の予防と対策 (滅菌と消毒、予防接種)			講義	
14	免疫と生体防御機構 (自然免疫と獲得免疫)			講義	
15	試験				
【使用テキスト】 わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版 南山堂				【参考文献・紹介文献】 学習に必要なプリントを作成して、授業で資料として配布します。	
【評価方法】 筆記試験の成績により評価する。					

授業科目	病理学	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 病気の原因、発生機序を理解する。					
2. 病気になった人間の身体に生じている変化を理解する。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	はじめに 病気、老化、死と病理学				講義
2	細胞障害・再生-変性、酸化ストレス、鉄代謝、細胞と組織の形成				講義
3	細胞傷害、壊死と細胞死				講義
4	炎症(1)－生体反応、制御因子				講義
5	炎症(2)－急性・慢性炎症の違いと形態像				講義
6	免疫(1)－免疫学の概要、免疫アレルギー				講義
7	免疫(2)－自己免疫疾患、免疫不全				講義
	循環障害-浮腫、充血とうっ血、塞栓と梗塞、ショック				
	腫瘍(1)－腫瘍とは、腫瘍の分類と種類				
	腫瘍(2)－増殖、悪性度と病期、発生のメカニズム				
	生活習慣病の原因と結果				
	生活習慣病の改善				
	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
はじめの一步のイラスト病理学 第2版 羊土社					
【評価方法】					
出席日数と定期試験により判定					

授業科目	疾病論 I	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	①学校長 ②③非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 疾病の原因・診断・治療について理解する。					
1)呼吸器系疾患 2)循環器系疾患 3)血液・造血器系疾患					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	呼吸器系疾患の 原因・診断・治療	肺がん		講 義	①
2		肺気腫		講 義	
3		肺結核		講 義	
4		呼吸不全		講 義	
5		肺炎		講 義	
6		気管支喘息		講 義	
7		閉塞性肺疾患		講 義	
8	循環器系疾患の 原因・診断・治療	症候論		講 義	②
9		高血圧		講 義	
10		冠動脈性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)		講 義	
11		心不全		講 義	
12	血液・造血器系疾 患の原因・診断・ 治療	貧血		講 義	③
13		白血球系疾患		講 義	
14		播種性血管内凝固症候群(DIC) ヒト免疫不全ウイルス感染症(HIV)		講 義	
15	終了試験			筆記試験	
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座成人看護学② 呼吸器、医学書院					
系統看護学講座成人看護学③ 循環器、医学書院					
系統看護学講座成人看護学④ 血液・造血器、医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	疾病論Ⅱ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 疾病の原因・診断・治療について理解する。					
1) 消化器系疾患 2) 腎・泌尿器系疾患 3) 内分泌・代謝系疾患 4) 女性生殖器系疾患 5) 口腔疾患					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	消化器系疾患の 原因・診断・治療	食道がん		講義	①
2		胃がん 胃十二指腸潰瘍		講義	
3		肝炎 肝硬変		講義	
4		肝がん 胆石		講義	
5		膵炎 膵がん		講義	
6	腎・泌尿器系疾患 の原因・診断・治 療	泌尿器系疾患		講義	②
7		腎疾患		講義	
8		腎不全		講義	
9	内分泌・代謝系疾 患の原因・診断・	視床下部・下垂体前葉系疾患		講義	③
10		視床下部・下垂体後葉系疾患		講義	
11		代謝疾患		講義	
12	女性生殖器系疾 患の原因・診断・ 治療	乳がん 子宮筋腫 子宮がん		講義	④
13		子宮内膜症 不妊症 性感染症		講義	
14	口腔疾患の原因・ 診断・治療	齲歯 歯周組織の疾患		講義	⑤
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座成人看護学⑤ 消化器、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑧ 腎・泌尿器、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑥ 内分泌・代謝、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑪ アレルギー、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑨ 女性生殖器、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑮ 歯・口腔、医学書院					
【評価方法】 筆記試験(100点)					

授業科目	疾病論Ⅲ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	②学校長 ①③④⑤⑥非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 疾病の原因・診断・治療について理解する。					
1)骨・筋系疾患 2)脳・神経系疾患 3)感覚器系疾患					
【内容】					
回数	授業内容		授業方法		講師
1	骨・筋系疾患等の 原因・疾患・治療	骨粗鬆症 骨折 捻挫・打撲 腱・筋断裂	講 義		①
2		変形性関節症 頸椎損傷	講 義		
3		椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症	講 義		
4		骨腫瘍 側弯症 腱鞘炎	講 義		
5		膠原病 リウマチ	講 義		
6	脳神経系疾患の 原因・疾患・治療	神経内科総論	講 義		②
7		脳血管障害	講 義		
8		変性疾患	講 義		
9		神経感染症 内科疾患による神経障害	講 義		
10		認知症	講 義		
11		脳腫瘍	講 義		③
12	感覚器系疾患の 原因・疾患・治療	皮膚疾患	講 義		④
13		耳鼻疾患	講 義		⑤
14		眼疾患	講 義		⑥
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座成人看護学⑩ 運動器、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑦ 脳・神経、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑫ 皮膚、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑭ 耳鼻咽頭、医学書院 系統看護学講座成人看護学⑬ 眼、医学書院					
【評価方法】					
筆記試験(100点)					

授業科目	疾病論Ⅳ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 小児期疾病の原因・診断・治療について理解する。					
2. 疾病の病態生理を学び、応用力のある小児科学センスを身につける。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	看護学生が知っておくべき小児科のトピックス			講 義	①
2	先天異常・新生児疾患 (新生児仮死、RDS、TTN、MAS)			講 義	
3	先天異常・新生児疾患 (高ビリルビン血症、PVL)			講 義	
4	内分泌・代謝系疾患(先天性甲状腺機能低下症)			講 義	
5	内分泌・代謝系疾患(先天性副腎皮質過形成、糖尿病 等)			講 義	
6	呼吸器・循環器系疾患(気管支喘息、クレープ)			講 義	
7	呼吸器・循環器系疾患(先天性心疾患、川崎病)			講 義	
8	感染症(麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・溶連菌感染・髄膜炎 等)			講 義	
9	消化器・泌尿器系疾患(食道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、腸重積症)			講 義	
10	消化器・泌尿器系疾患(溶連菌感染後糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)			講 義	
11	妊娠の異常の原因・診断・治療(流産・早産・感染症・常位胎盤早期剥離・悪阻 等)			講 義	②
12	妊娠の異常の原因・診断・治療(妊娠高血圧症候群・前置胎盤・多胎妊娠 等)			講 義	
13	分娩の異常の原因・診断・治療(前期破水・帝王切開術・胎児機能不全・弛緩出血 等)			講 義	③
14	産褥の異常の原因・診断・治療(肺塞栓・復古不全・産褥熱・乳腺炎・産後うつ 等)			講 義	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院				中沢誠:南江堂	
母性看護学② 母性看護学各論 医学書院				CDによる聴診トレーニング (小児心音編)	
【 評価方法 】					
筆記試験 100点					

授業科目	疾病論V	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 疾病の原因・診断・治療について理解する。					
【内容】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	精神症状論と状態像①	講義	①		
2	精神症状論と状態像②	講義			
3	統合失調症	講義			
4	気分障害(うつ病、双極性障害)	講義			
5	神経症性障害・ストレス関連障害	講義			
6	摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害	講義			
7	神経発達障害、アルコール関連障害	講義			
8	認知症、症状精神病	講義			
9	てんかん① 疫学・定義・病型分類	講義	②		
10	てんかん② 診断分類と発作型分類と発生収録ビデオ供覧	講義			
11	精神療法、社会療法	講義	①		
12	薬物療法①	講義			
13	薬物療法②	講義			
14	総まとめ、重要ポイント解説	講義			
15	終了試験				
【使用テキスト】 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院				【参考文献・紹介文献】 ・「精神科治療学」 ・日本医師会雑誌	
【評価方法】 ・筆記試験					

授業科目	薬理学 I	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 疾患と関連づけて代表的な薬物の薬効、作用機序、副作用などについて理解する。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	総論				講義
2	総論				講義
3	末梢神経				講義
4	中枢神経				講義
5	中枢神経				講義
6	心血管系				講義
7	心血管系				講義
8	感染症				講義
9	抗がん薬 まとめ				講義
10	免疫 抗アレルギー 抗炎症				講義
11	呼吸器 消化器 生殖器				講義
12	代謝 皮膚 眼科				講義
13	消毒薬				講義
14	漢方 輸液 まとめ				講義
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
疾病の成り立ちと健康の回復③ 薬理学 医学書院					
【評価方法】					
筆記試験(100点)					

授業科目	薬理学Ⅱ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】 1. 臨床で必要な薬物管理、添付文書の読み方、相互作用、服薬指導の方法、治験の意義について理解する。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	相互作用				講義
2	治験				講義
3	薬品管理				講義
4	情報・添付文書				講義
5	服薬指導				講義
6	感染防止				講義
7	DDS、まとめ				講義
8	終了試験				
【使用テキスト】 疾病の成り立ちと健康の回復3 薬理学				【参考文献・紹介文献】	
【評価方法】 筆記試験(100点)					

授業科目	臨床心理学	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 臨床心理学の基本的な考え方を理解する。					
2. 精神障害におけるアセスメントと介入を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	感覚、知覚の心理 学習、記憶の心理 感情、動機の心理				講 義
2	性格、知能の心理 発達心理(パーソナリティの障害と成熟)				講 義
3	発達心理(青年期、成人期) 社会集団の心理				講 義
4	社会集団の心理 健康の心理と人間理解(ストレスのシステム理論)				講 義
5	健康の心理と人間理解(看護職員の心理) 臨床心理学の基礎とアセスメント				講 義
6	臨床心理学の基礎とアセスメント カウンセリングと心理療法				講 義
7	カウンセリングと心理療法				講 義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
看護学生のための心理学 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	診断治療論	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 疾病の診断をするための検査について理解する。					
2. 主な治療(手術療法、化学療法、放射線療法)について理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護師の役割	講 義	①		
2	一般検査 検体採取時の注意点 国試における注意点箇所	講 義			
3	血液学的検査 WBC分類の説明 貧血	講 義			
4	生化学検査 検査種類項目説明 性感染症の現状	講 義			
5	免疫・血清・輸血 内分泌 病理	講 義			
6	微生物検査 微生物検査の流れ グラム染色分類 感染症	講 義			
7	生理検査 心電図 負荷心電図 終講試験ワンポイント	講 義			
8	放射能と放射線 単位	講 義	②		
9	X線検査 CT・MRI検査	講 義			
10	血管造影・IVR・超音波検査	講 義			
11	核医学検査	講 義			
12	放射線治療	講 義			
13	人体への影響・防護	講 義			
14	健康年齢と画像診断	講 義			
15	手術療法 総論(手術とは)	講 義	③		
16	手術侵襲と生体反応	講 義			
17	麻酔	講 義	③		
18	術後の疾病管理	講 義			

回数	授業内容	授業方法	講師
19	外科基本手技	講義	③
20	外科基本手技、処置	講義	
21	がん化学療法概論	講義	④
22	がん化学療法の看護	講義	
	終了試験		
【使用テキスト】 ①別巻 臨床検査 ②別巻 臨床放射線医学 ③別巻 臨床外科看護総論 ④別巻 がん看護学		【参考文献・紹介文献】 ナースのための感染症対策マニュアル	
【評価方法】 筆記試験 ①臨床検査 30点 ②放射線医学 30点 ③手術療法 30点 ④化学療法 10点			

授業科目	臨床カウンセリング	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. カウンセリングの基本を知る。					
2. 演習を通してカウンセリングに必要なラポールの技術を身につける。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	・第3章 心理的ケアのための基本技法をめぐって ・オリエンテーション カウンセリングの概論				講義・演習
2	・第4章 技法A :リソースの発見				講義・演習
3	・第4章 技法B :傾聴と共感				講義・演習
4	・第4章 技法C :チューニング				講義・演習
5	・第4章 技法D :ポジティブメッセージ				講義・演習
6	・第4章 技法E :リフレーミング				講義・演習
7	・第4章 技法F :アンカリング				講義・演習
8	筆記試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
ナースだからできる5分間カウンセリング 看護現場で役立つ心理的 ケアの理論と実際 医学書院				授業の中で紹介する	
【評価方法】					
毎回のリフレクションシート 35点					
筆記試験 65点					

授業科目	健康管理論	時期	第学1年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 衛生の主要指標を通して、健康に関する動向を理解する					
2. 保健医療福祉制度について理解する					
3. 個人・集団・地域における健康管理の特徴と方法について理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	公衆衛生とは(1)公衆衛生とは何か。公衆衛生の歴史としくみ				講義
2	公衆衛生とは(2)公衆衛生の活動対象としくみ				講義
3	集団の健康を捉えるための手法 疫学 保健統計				講義
4	環境と健康				講義
5	感染症とその予防対策				講義
6	国際保健 地域における公衆衛生の実践 (1)公衆衛生看護とは				講義
7	地域における公衆衛生の実践 (2)母子保健				講義
8	地域における公衆衛生の実践 (3)成人保険				講義
9	地域における公衆衛生の実践 (4)高齢者保健				講義
10	地域における公衆衛生の実践 (5)精神保健				講義
11	地域における公衆衛生の実践 (6)歯科保健(7)障害者、難病保健				講義
12	学校と健康				講義
13	職場と健康				講義
14	健康危機管理・災害保健				講義
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
1. 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生 医学書院				適宜 紹介する	
2. 国民の動向 厚生労働統計協会					
【 評価方法 】					
試験の評価は、100点満点とし、60点以上を合格とする					

授業科目	保健統計学	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 基本的な統計処理の方法について理解する。					
2. 個人または集団の健康に関する統計的な見方を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	統計学の基本的な考え方、データの種類、代表値			講 義	
2	統計データのまとめ方;入力方法、度数分布表、図示法			講 義・演 習	
3	統計データのまとめ方;一次集計			講 義・演 習	
4	統計学的検定の基礎			講 義・演 習	
5	統計学的検定の応用			講 義・演 習	
6	人口統計と保険統計1			講 義	
7	人口統計と保険統計2			講 義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
ていねいな保健統計学 羊土社				量的な看護研究のきほん	
国民衛生の動向				医歯薬出版	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	医療情報科学	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 情報の収集・加工・出力という一連の流れを理解する。					
2. Word、Excel、PowerPointの基本的な操作法を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	講義内容説明・情報とは				講 義
2	情報とデータの違い				講 義・演 習
3	班課題発表				講 義・演 習
4	班課題のテーマ選定 ブレーンストーミング(拡散的思考)				講 義・演 習
5	班課題のテーマ選定 (収束的思考)				講 義・演 習
6	情報ソース、その速報性と信憑性、SNSの使用について				講 義・演 習
7	EBN(根拠に基づく看護) 学術雑誌散見				講 義・演 習
8	班課題 進捗報告				講 義・演 習
9	看護学と情報学の融合:クリティカルパス				講 義・演 習
10	看護学と情報学の融合:医療情報システム・電子カルテ				講 義・演 習
11	班課題 レイアウト・掲載内容吟味				演 習
12	PC基礎:Windowsに慣れる				演 習
13	Word基礎Ⅰ:文字の装飾、加工				演 習
14	Word基礎Ⅱ:レイアウト、印刷、図形描画				演 習
15	Word応用Ⅰ:課題				演 習
16	Excel基礎Ⅰ:セルの概念、書式設定				演 習
17	Excel基礎Ⅱ:関数とグラフ				演 習
18	Excel応用Ⅰ:課題				演 習
19	PowerPoint基礎Ⅰ:プレゼンテーションとは				演 習
20	PowerPoint基礎Ⅱ:効果、資料作成				演 習
21	PowerPoint応用:課題				演 習
22	班課題、相互評価 結果発表				講 義
23	情報とは:多様な視点				講 義
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
できるWord&Excelパーフェクトブック インプレス出版					
【 評価方法 】					
情報の収集・加工・出力に関するグループワーク、					
Word、Excelの単体課題または複合課題					

授業科目	社会福祉と法律	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 社会保障についての考え方を理解し、社会保障制度と関連する法規について理解する。 2. 社会福祉活動の実際を実践例を通して理解する。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	社会福祉を学ぶ意味			講義	
2	社会福祉を学ぶ意味			講義	
3	社会保障制度と社会福祉			講義	
4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向			講義	
5	現代社会の変化と医療保障			講義	
6	医療保障制度について			講義	
7	地域格差と問題点 介護保障			講義	
8	所得保障			講義	
9	公的扶助			講義	
10	障害者福祉と高齢者福祉			講義	
11	社会福祉の分野とサービス(障害者福祉)			講義	
12	社会福祉の分野とサービス(児童福祉)			講義	
13	社会福祉実践と医療・看護			講義	
14	社会福祉の歴史			講義	
15	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門基礎 社会保障・社会福祉 医学書院 社会福祉小六法2021 ミネルヴァ書房					
【評価方法】					
筆記試験					

授業科目	看護学概論 I	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 看護実践に必要な諸概念について理解する。					
2. 看護の歴史から看護の役割と機能が社会のニーズに沿って変化することを理解する。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	I. 看護とは 1. 看護の定義 2. 看護の目的 3. 看護の対象 4. 看護の場 5. 看護の役割と機能				講義
2	II. 看護の歴史 1. ナイチンゲール以前の看護(近代以前の看護)				講義・演習
3	2. ナイチンゲールによる近代看護 3. 日本の近代看護(職業としての看護) 4. 太平洋戦争後の看護の歴史				
4	III. 人間の理解 1. 人間とは何か 2. 生命体と生活体 3. 人間の基本的欲求 4. 人間と環境 5. 発達理論 6. 人間の心理行動				講義
5	IV. 健康 1. 健康の概念 2. 健康の実現 3. 健康に影響する要因 4. 現代生活における健康問題				講義
6	V. 環境 1. 環境とは 2. 看護理論家がとらえた環境の概念 3. 病者の生活環境と看護の役割				講義
7	VI. 看護の理論 ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロウ、オレム、ロイ				講義・演習
	筆記試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
1. 茂野香おる他:専門分野 I 看護学概論, 医学書院, 2023.					
2. フロレンス・ナイチンゲール, 湯槇ます訳:看護覚え書, 現代社, 2022.					
3. ヴァージニア・ヘンダーソン:看護の基本となるもの, 日本看護協会出版社, 2021.					
【評価方法】					
レポート 30点					
筆記試験 70点					

授業科目	看護学概論Ⅱ	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 看護の対象を生活を営む者として幅広く理解できる。					
2. 看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解できる。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	I. 看護の対象 1. 人間とは(人間に関する理論) (ホメオスタシス、ストレス、コーピング理論、マズローの欲求段階説、危機理論)			講義	
2					
3	3. 各期の発達段階の特徴			演習	
4	II. 看護実践における法律と倫理 1. 法と倫理の違い			講義	
5	2. 看護に関する法について 1)法の種類 2)看護六法 3)保助看法 4)保助看法施行令・施行規則等 5)看護師等の人材確保の促進に関する法律 6)医療法 7)その他の法律				
6	3. 看護における倫理 1)看護倫理を学ぶ意義 2)看護倫理の歴史 3)看護の倫理原則 4)看護実践上の倫理的概念 5)看護実践と倫理			講義	
7	4. 専門職の倫理 看護者の倫理綱領			演習	
8	5. 倫理的問題へのアプローチ 1)看護実践における倫理的問題の特徴 2)倫理的問題へのアプローチ			講義・演習	
9	III. 健康を守るためのヘルスケアシステム 1. 保健・医療・福祉の理念とその関係 2. 保健・医療・福祉の提供システム			講義	
10	3. 保健・医療・福祉チーム 1)保健・医療・福祉チームの職種 2)保健・医療・福祉チームの連携と協働			講義	
11	IV. 看護サービス 1. 看護業務(看護業務基準) 2. 看護過程 3. 健康レベルに応じた看護 4. 看護方式 5. 継続看護			講義	
12	V. 看護をめぐる制度と政策 1. 医療保険制度(診療報酬) 2. 看護の人員配置基準と看護サービスの評価			講義	
13	VI. 看護研究の基礎 1. 看護研究の基礎知識 1)看護研究の意義・目的 2)研究成果の活用			講義	
14	VII. 医療安全 1. アクシデント・インシデント 2. ヒューマンエラーと医療事故 3. 看護業務の特性と医療事故 4. 医療事故防止対策			講義・演習	
15					
	筆記試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
1. 茂野香おる他:専門分野Ⅰ 看護学概論, 医学書院, 2023.					
2. 看護六法 2023年版					
3. 宮坂道夫:別巻 看護倫理 第2版 医学書院 2023.					
【評価方法】					
筆記試験 100点					

授業科目	看護の方法 I	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	2単位 45時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護技術とは何かを理解する。					
2. 各看護学の実践の基盤となるコミュニケーション・観察・フィジカルアセスメントの技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	看護技術とその特徴				講義
2	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素と成立過程				講義・演習
3	コミュニケーションの分類 関係構築のためのコミュニケーションの基本				講義・演習
4	効果的なコミュニケーションの実際				講義・演習
5	コミュニケーションに障害のある人への対応 看護の中の学習支援				講義
6	看護における観察 観察の視点				講義
7	フィジカルアセスメントとは、フィジカルアセスメントの意義 フィジカルアセスメントに必要な技術(問診、視診、触診、聴診、打診)				講義・演習
8	フィジカルアセスメントに必要な技術(問診、視診、触診、聴診、打診)				講義・演習
9	バイタルサインの意味と測定技術 バイタルサインの観察とアセスメント				講義・演習
10	バイタルサインの意味と測定技術 バイタルサインの観察とアセスメント				講義・演習
11	バイタルサインの意味と測定技術 バイタルサインの観察とアセスメント				講義・演習
12	意識レベルの評価 身体計測				講義・演習
13	系統別のフィジカルアセスメント				講義・演習
14	系統別のフィジカルアセスメント				講義・演習
15	記録と報告の技術				講義
	技術試験 バイタルサイン測定(体温・呼吸・脈拍・血圧)				
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
系統看護学講座 基礎看護技術 I・II 医学書院 看護がみえるvol.1、vol3				フィジカルアセスメントガイド ブック 医学書院	
【 評価方法 】					
筆記試験 80点 技術試験20点					

授業科目	看護の方法Ⅱ	時期	第1学年 第1・2学期	単位数 (時間数)	2単位 60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 日常生活援助に必要な看護技術を習得する。 1)環境調整援助技術 2)食事援助技術 3)排泄援助技術 4)活動援助技術 5)睡眠吸息援助技術 6)安楽確保の技術					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	環境調整 技術	1. 環境調整技術に必要な基礎技術 1)環境とは (1)外部環境(2)内部環境 2)人と環境の関係性 3)療養生活と環境 4)環境調整における看護師の役割			講義
2		5)病室の環境のアセスメントと調整 (1)病室・病床の選択 (2)温度・湿度 (3)光と音 (4)色彩 (5)空気の清浄性とにおい(6)人的環境			講義
3		2. 環境調整技術の援助の実際 1)ベッド周囲の環境整備 2)病床の整備 (1)マットレス・枕・リネンの条件(2)ベッドメイキング(3)リネン交換			講義
4		病床の整備 ベッドメイキングデモンストレーション			演習
5		ベッドメイキング演習			演習
6		ベッド周囲の環境整備 デモンストレーション、演習			演習
7		病床の整備 リネン交換(臥床患者のシーツ交換)デモンストレーション 演習			演習
8		病床の整備 リネン交換(臥床患者のシーツ交換)デモンストレーション 演習			演習
9		技術試験 ベッドメイキング			講義・演習
10	食事援助 技術	1. 食事の基礎知識とアセスメント			講義・演習
11		2. 食事援助の基礎知識 嚥下のメカニズム			講義・演習
12		3. 食事援助技術の実際 1)非経口的栄養摂取の援助			講義・演習
13		2)食事介助の実際			演習
14	排泄援助 技術	1. 排泄の意義・メカニズム			講義
15		2. 排泄(排尿・排便)のアセスメント			講義
16		3. 自然排尿および自然排便の援助 (1)自然排泄を促す援助 (2)トイレにおける排泄援助 (3)ポータブルトイレでの排泄援助 (4)床上排泄援助			講義

回数	授業内容		授業方法
17	排泄援助 技術	(5)おむつによる排泄援助 4. 排尿障害時の援助 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿	講義
18		5. 排泄援助の実際 (1)尿器・便器の当て方 (2)おむつの当て方	演習
19			
20		6. 排泄障害時の援助 (1)浣腸 (2)摘便 7. 排泄経路変更時の援助	講義
21		8. 排便障害の援助の実際 (1)グリセリン浣腸	演習
22	活動援助 技術	1. 活動と運動意義 2. 活動の基礎知識 ①姿勢・体位②関節可動域③良肢位	講義
23		④廃用症候群⑤日常生活動作⑥ボディメカニクス 3. 活動のアセスメント	講義
24		4. 活動援助技術 ①体位変換	講義・演習
25		②自動・他動運動 ③ストレッチャーでの移動の援助	講義・演習
26		④車椅子での移動の援助 ⑤歩行の援助	講義・演習
27		技術試験:車椅子移乗	講義
28	睡眠休息 援助技術	1. 睡眠・休息の基礎知識 2. 睡眠・休息に関するアセスメント 3. 睡眠・休息援助技術の実際	講義・演習
29	安楽確保 の技術	1. 安楽確保の援助の実際 2. 安楽確保に関するアセスメント	講義
30		3. 安楽確保援助技術の実際(罨法・ポジショニング)	演習
		終了試験	
【使用テキスト】			【参考文献・紹介文献】
系統看護学講座 基礎看護技術II 医学書院			
看護がみえる vol1, 2			
【評価方法】			
筆記試験			

授業科目	看護の方法Ⅲ	時期	第1学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師目	専任教員			実務経験 有無	有
【目標】 日常生活援助に必要な看護技術を習得する。 1)清潔援助技術 2)衣生活援助技術					
【内容】					
	内容				方法
1	1.衣生活援助の意義 2.衣生活援助の基礎知識 3.寝衣交換の実際(病衣の選び方・交換準備)				講義
2	1.清潔援助の意義 2.清潔援助に関わる皮膚の構造と機能 3.清潔援助の効果				講義
3	1.清潔援助の効果と影響(入浴行動から考える) 2.清潔援助を必要とする対象の理解 3.清潔援助における看護師の役割 4.清潔援助の方法(概要・目的・留意点)				講義
4	1.清潔援助時の実施原則 2.物品の使用方法				講義・演習
5	1.寝衣交換の基本原則				講義・演習
6	2.寝衣交換(和式寝衣)の実際 3.寝衣(セパレートタイプ)の実際 ※デモストレーションのみ				
7	全身清拭の実際				講義・演習
8					
9	陰部洗浄の実際				講義・演習
10	手浴・足浴の実際				講義・演習
11	洗髪の実際				講義・演習
12					
13	1.口腔ケアの実際・爪切りの実際 2.整容(髭剃り、眼・耳・鼻の清潔)				講義・演習
14	※寝衣交換(和式寝衣)技術試験				技術試験
15	※全身清拭技術試験				技術試験
	終了試験(45分)				
【使用テキスト】 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol1				【参考文献・紹介文献】	
【評価方法】 認知試験 70% 全身清拭技術 15% 寝衣(和式)交換技術試験 15%					

授業科目	看護の方法Ⅳ		時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	2単位 60時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有	
【 科目目標 】1. 診療に伴う看護技術を習得する。						
【 内容 】						
回数	授業内容				授業方法	
1	感染予防の 技術	1. 感染の定義 2. 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3. 感染経路別予防策			講 義	
2		演習:手洗い、個人防具の着脱			講義・演習	
3		4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 6. 感染廃棄物の取り扱い 演習:無菌操作			講義・演習	
4		技術試験:無菌操作			演 習	
5	呼吸・循環・ 体温を 整える技術	1. 呼吸循環を整える技術			講 義	
6		2. 体温を整える技術			講 義	
7		3. 酸素吸入療法 酸素ボンベの取り扱い 4. 一時的吸引			講義・演習	
8		演習:吸引(口腔内・鼻腔内・気管内)			演 習	
9	創傷管理の 技術	1. 創傷管理の基礎知識 創傷処置(創洗浄と創保護)		2.	講 義	
10		3. 褥瘡予防・治癒の促進			講 義	
11		4. 創傷処置(包帯)			講義・演習	
12		5. 包帯法の実際			演 習	
13	救命救急 処置	1. 救命救急処置の基礎知識 一次救命・二次救命 2. 心肺蘇生法 3. 止血法 急変時の対応 演習:気道確保・胸骨圧迫			4.	講義・演習
14	検査時の 援助技術	1. 検査の目的・種類 2. 検査における看護師の役割			講 義	
15		3. 検査時の看護 検体検査 ②生体検査			①	講 義
16		③内視鏡検査・穿刺 ④静脈血採血の基本手技 ⑤血糖測定の手技			講 義	
17		検査時の看護 液検査と看護、静脈血採血の基本手技、血糖測定手技			血	講 義
18		静脈血採血の実際(シリンジでの真空採血・血糖測定)			演 習	
19		技術試験:静脈血採血(モデル人形)			演 習	
20	死亡時の 援助技術	1. 死の看取りの基礎知識 2. 臨終の見守りと死後のケア 3. グリーフケア			講義・演習	

回数	授業内容		授業方法
21	与薬の技術	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬における看護師の役割	講義
22		3. 安全で正しい与薬 6R 4. 与薬の方法 経口・口腔内与薬・吸入療法・経皮与薬・点眼点鼻点耳・直腸内与薬	演習
23		演習:直腸内与薬	演習
24		5. 注射の基礎知識 6. 注射の準備 注射筒・針の構造	講義・演習
25		7. 注射薬ラベルの意味 演習:薬剤の準備	講義・演習
26		8. 注射の実施方法 皮下注射、筋肉内注射	演習
27		静脈内注射(ワンショット・三方活栓)	講義・演習
28		点滴静脈内注射 ライミングと管理・輸液ポンプとシリンジポンプ	講義・演習
29		9. 中心静脈留置カテーテル 0. 輸血管理	講義
30		技術試験 筋肉内注射	
		終了試験	
【使用テキスト】		【参考文献・紹介文献】	
基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院			
看護がみえる Vol.1, 2, 3 メディックメディア			
【評価方法】			
筆記試験:80点 技術試験:20点			

授業科目	看護過程の展開	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 看護過程に関する基本的知識・技術を習得する。					
【内容】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 看護過程とは 問題解決過程と看護過程 看護過程の概要(看護過程の意義・看護過程の段階) クリティカルシンキング				講義
2	2. 看護過程の各段階 1)アセスメントについて (1)情報収集について:情報とは何か、情報収集の方法(視点) (2)情報の解釈・分析について(解釈分析の視点)				講義
3	・事例(肺炎)を用いた生命維持領域(呼吸)の情報整理と解釈・分析 ・事例の情報の解釈分析の解説(呼吸)				演習
4・5	・事例の情報から、生命維持と日常生活行動、 社会関係に関する項目の情報整理と解釈・分析				演習
6	・事例を用いた情報の解釈・分析の解説				講義
7	(3)患者の全体像の把握(関連図について) 病態関連図に基づいた患者情報の整理(患者関連図) 2)看護上の問題の明確化について 看護上の問題の抽出、優先順位の決定とその根拠 共同問題について				講義
8・9	・事例を用いた患者の全体関連図の作成 看護上の問題の抽出と看護上の問題の優先順位の決定と その根拠を考える				演習
10	・患者の全体関連図と看護上の問題について 看護上の問題の優先順位の決定とその根拠について解説				講義
11	3)看護計画について (1)患者目標の設定 (2)看護計画の立案				講義
12	・事例を用いた看護計画の作成(具体策作成)				演習
13	・看護計画について解説 4)実施と評価				講義
14・15	・事例を用いた看護計画を実施と評価				演習
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 古橋 洋子編集 初めて学ぶ看護過程 医学書院 2017					
【評価方法】					
演習:30点 筆記試験:70点					

2023年度

授業科目	看護研究	時期	第3学年 第1・2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有	有
【 科目目標 】					
1. 看護実践における研究の方法を理解する。					
2. ケーススタディの方法を理解し、実習で受け持った患者の看護をケーススタディとしてまとめることで、看護を探究する態度を身につける。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	I.看護研究とは 研究の意義、 II.看護研究のプロセス			講 義	
2	III.看護研究に欠かせない文献検索とその実際			講 義 演 習	
3	IV.看護研究の方法 研究の問いに基づいた分類			講 義	
5	V.看護研究と倫理的問題			講 義	
6	VI.ケーススタディとは、 ケーススタディの目的 VII.ケーススタディのプロセス			講 義	
7	VIII.ケーススタディ計画書作成の意義と方法			講 義	
8	IX.ケーススタディの実際 論文の構成 抄録の作成、発表と講評			講 義	
9	論文作成①(計画書作成)			個人ワーク 指導	
10	論文作成②(看護の実際)			個人ワーク 指導	
11	論文作成③(看護の実際)			個人ワーク 指導	
12	論文作成④(考察)			個人ワーク 指導	
13	論文作成⑤(考察)			個人ワーク 指導	
14	論文作成⑥(全体)			個人ワーク 指導	
15	筆記試験				
16	ケーススタディ発表			発表	
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
黒田裕子:黒田裕子の看護研究 step by step. 第6版. 学研, 2023.				1. 南裕子・野嶋佐由美 編:看護における研究. 第2版. 日本看護協会出版会, 2017.	
【 評価方法 】				2. 森田夏実 編:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方. 新版. 照林社, 2021.	
筆記試験:30点				3. 國澤尚子編著:はじめて学ぶケーススタディ. 第2版. 総合医学社, 2020.	
ケーススタディ計画書、取り組み、論文構成、発表により評価:70点					

2023年度

授業科目	地域・在宅看護概論 I	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅看護の特徴を理解する					
2. 地域・在宅看護の対象を支える看護の役割を理解する					
3. 地域・在宅看護にかかわる制度や地域の社会資源との連携を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の目的と特徴 1) 保健・医療・福祉の動向 2) 地域看護と在宅看護				講義
2	2. 地域・在宅看護の目的と特徴				講義
3	3. 地域・在宅療養者の特徴 1) ライフサイクルからみた対象者 2) 健康レベルからみた対象者 3) 疾患からみた対象者 4) 障害レベルからみた対象者 5) 状態別・状況別対象者 6) 生活の場からみた対象者				講義
4	4. 地域・在宅看護における看護師の役割 1) 症状マネジメント 2) 自立・自律支援 3) リスクマネジメント 4) 権利擁護 5) 多職種連携、協働				講義
5	5. 健康と暮らしを支える看護 1) 地域包括ケアシステム (自助、互助、共助、公助)				講義
6	6. 地域・在宅看護にかかわる制度 1) 医療保障制度 2) 介護保険制度 3) 難病法 4) 障害者総合支援 5) 子どもの在宅療養を支える制度 (1) 養育医療 (2) 特別支援教育				講義
7	7. 地域における社会資源の種類とその役割 1) 行政機関(保健所・市町村) 2) 地域包括支援センター 3) 居宅介護支援事業所 4) 介護サービス事業所				講義
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基礎 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	地域・在宅看護概論Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅看護の対象としての家族の特徴を理解する					
2. 家族看護にかかわる理論と介入法について理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域・在宅看護の対象としての家族 1) 家族看護とは 2) 家族の構造と機能				講義
2					
3	2. 家族看護を支える理論 1) 家族システム理論 2) セルフケア理論 3) 危機理論				講義
4					
5	3. 家族看護の介入法 1) 療養者への看護 2) 個々の家族への看護 3) 家族の関係性に働きかける看護 4) 家族の社会性に働きかける看護 5) 医療安全・災害看護				講義
6					
7					
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験 (100点)					

2023年度

授業科目	地域・在宅看護の方法 I	時期	1学年 2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅で療養する人々とその家族の暮らしを理解する					
2. 地域・在宅看護における健康と看護の役割・機能を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 地域での暮らし 2. 暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)生活習慣対策(栄養と食生活、飲酒、喫煙) 2)ライフサイクルと主な健診・検診 3)こころの健康 4)身体活動・運動 5)育児支援 6)特別支援教育				講義
2	暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)生活習慣対策(栄養と食生活、飲酒、喫煙) 2)ライフサイクルと主な健診・検診 3)こころの健康 4)身体活動・運動 5)育児支援 6)特別支援教育 ※地域で健康を支える支援の実際を見学し、社会資源の活用とその効果について学ぶ				地域見学
3	暮らしが健康に与える影響と健康づくり 1)～6)の内容について ※地域で健康を支える支援の実際を見学し、社会資源の活用とその効果についてまとめ、発表し、学びを共有する				GW
4	3. 地域で展開される健康と暮らしを支える看護 1)地域で暮らし続けることを支援するマネジメント (1)自己決定支援 (2)ケアマネジメントと社会支援の活用 2)暮らしの場で行われる治療と看護				講義
5	4. 地域の生活環境が健康に与える影響 1)文化的、社会的、自然環境 2)暮らしを支える制度 ・感染症対策 ・食品保健(食中毒) ・環境保健(大気汚染/上下水道/廃棄物処理)				講義
6	5. 家族看護の実際 1)発達課題の達成への支援 2)ライフスタイル維持への支援 3)健康問題への対応能力への支援 (問題解決能力、対処能力、適応能力)				講義
7					
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院 公衆衛生がみえる メディックメディア					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

2023年度

授業科目	地域・在宅看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	非常勤講師			実務経験	有
【 科目目標 】					
1. 地域・在宅で生活しながら療養する人々とその家族に対する看護を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅療養者とその家族の看護 1) 家族アセスメント 2) 家族への支援 3) 地域システムの視点から家族を支える方法			講義	
2	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 1) 難病疾患による療養者と家族への看護 (1) 日常生活の支援 (2) 療養者と家族のメンタルサポート (3) 社会資源の情報提供と活用 (4) 医療機関との連携 ※在宅人工呼吸療法、経管栄養法(胃瘻)、在宅中心静脈栄養法を受ける療養者の看護も含む			講義	
3	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 2) 脳血管疾患にある療養者と家族への看護 (1) 在宅に移行する療養者の看護 ・日常生活上の指導・社会資源の情報提供と活用 (2) 寝たきりで過ごす療養者の看護 ・寝たきりによる合併症予防と家族への指導)※褥瘡管理を含む ・QOLを考慮したADLの援助 ・家族の健康維持や心理的な支援 ・社会資源の活用			講義	
4	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 3) 認知症の療養者と家族への看護 (1) 症状への対応 (2) 服薬指導 (3) 事故防止 (4) 社会資源の活用			講義	
5	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 4) 重症心身障害のある療養者と家族への看護 (1) 日常生活への支援(2) 家族の精神的支援(レスパイト、支援学校への通学支援)			講義	
6	2. 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者と家族への看護 5) 精神疾患の療養者と家族への看護 (1) 通院や服薬を中断している療養者と家族への支援 (2) 生活復帰や就労支援 (3) 長期療養者を抱える家族への支援			講義	
7	3. 在宅における医療管理を必要とする療養者の看護 1) 在宅酸素療法 2) 化学療法・放射線療法			講義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院					
地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践 医学書院					
成人看護学 脳神経 呼吸器 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	地域・在宅看護の方法Ⅲ	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 在宅看護を受ける療養者の病期に応じた看護が理解できる					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅療養準備期(退院前) 1) 医療における入退院時の連携 2) 患者・家族の意思決定支援と調整 3) 退院支援・退院調整 4) 看看連携 5) 病病連携/病診連携 6) 医療施設や介護施設との連携 7) 行政との連携 8) 在宅ケアで連携する主な保健・医療・福祉関連職種とその役割 9) チーム医療における関係職種との連携			講義	
2	2. 在宅療養移行期 1) 療養生活と介護の実際 2) サービスの利用と評価 3) ケア方法の指導 4) 介護者の健康維持への支援 5) チーム医療における関係職種との連携			講義	
3	3. 在宅療養安定期 1) 地域ケア会議における看護職種の役割 2) 家族の介護力のアセスメントと調整 3) 在宅におけるリハビリテーション 4) チーム医療における関係職種との連携			講義	
4	4. 急性増悪期 1) 症状悪化の予防と早期対応 2) 緊急時の対応 3) 医師・医療機関との連携 4) チーム医療における関係職種との連携 4) 看護サマリー 5) 移送手段の確保と入院の準備			講義	
5	5. 終末期(看取り期) 1) ターミナルケアの支援体制(医療・看護・介護) 2) チーム医療と関係職種との連携 2) 終末時緩和ケアの実際 3) 看取りへ支援 4) アドバンス・ケア・プランニング 5) 病院の退院決定から在宅移行期の時期の調整			講義	
6	6. 終末期看護 1) 家族へのグリーフケア			講義	
7	7. 在宅療養終了期 1) 看護サマリーの作成と医療機関への情報提供			講義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】 地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実際 医学書院				【 参考文献・紹介文献 】	
【 評価方法 】 筆記試験(100点)					

授業科目	地域・在宅看護の展開技術	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	専任教員			実務経験	無
【 科目目標 】					
1. 在宅療養者のニーズに応じながら看護を実践するために必要な技術を理解する					
2. 在宅療養者と家族の健康上の問題を把握し、社会資源の活用を考慮した看護過程の展開技術を習得する					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅看護の基本技術 1) 訪問時のマナー 2) フィジカルアセスメント			講義/演習	
2	1. 在宅看護の基本技術 1) 訪問時のマナー			演習	
3	1. 在宅看護の基本技術 1) フィジカルアセスメント			演習	
4	2. 在宅における日常生活援助技術			講義/演習	
5	3. 在宅における日常生活援助技術			講義/演習	
6	4. 在宅における日常生活援助技術			演習	
7	3. 在宅における診療の補助技術			講義/演習	
8	3. 在宅における診療の補助技術			演習	
9	3. 在宅における診療の補助技術			演習	
10	4. 在宅看護過程展開(事例展開) 脳卒中の療養者と家族への看護			講義/演習	
11	4. 在宅看護過程展開(事例展開) 脳卒中の療養者と家族への看護			演習	
12	4. 在宅看護過程展開(事例展開) 脳卒中の療養者と家族への看護			演習	
13	4. 在宅看護過程展開(事例展開) 脳卒中の療養者と家族への看護			演習	
14	4. 在宅看護過程展開(事例展開) 脳卒中の療養者と家族への看護			演習	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
地域・在宅看護論① 地域・在宅看護の基盤 医学書院					
地域・在宅看護論② 地域・在宅看護の実践盤 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験(70点)					
課題(30点)					

授業科目	成人看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 成人期にある対象の身体的、精神・心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 成人期に起こりやすい健康問題を理解する。					
3. 成人期の健康の保持・増進、疾患の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	対象の理解			講 義	
2	対象の生活			講 義	
3	成人を取り巻く環境と生活からみた健康			講 義	
4	生活と健康をまもりはぐくむシステム(法律等)			講 義	
5	成人への看護アプローチの基本 (生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助、健康問題をもつ大人と看護師の人間関係、看護におけるマネジメント)			講 義	
6	成人への看護アプローチの基本 (看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援)			講 義	
7	ヘルスプロモーションと看護			講 義	
8	健康をおびやかす要因と看護			講 義	
9	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (健康の急激な破綻、急性期にある人の看護)			講 義	
10	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (救急医療を必要とする人々)			講 義	
11	慢性病との共存を支える看護 (患者の理解)			講 義	
12	慢性病との共存を支える看護 (看護の実践)			講 義	
13	障害がある人の生活とリハビリテーション			講 義	
14	人生最期のときを支える看護 (最後のときを過ごしている人の理解)			講 義	
15	人生最期のときを支える看護 (医療の現状、看護)			講 義	
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)				国民衛生の動向	
【 評価方法 】					
筆記試験:100点					

授業科目	成人看護の方法 I	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 成人が健康な生活を営むために必要な看護の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	学習者である患者への看護技術 治癒過程にある患者への看護技術				講 義
2	症状マネジメントにおける看護技術 療養の場を移行する人々への看護技術				講 義
3	生活習慣病の予防と看護(健康日本21) 生活習慣病予防のための指導教育演習 課題提示				講 義・演 習
4	生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク①				演 習
5	生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク②				演 習
6	生活習慣病予防のための指導教育演習 グループワーク③				演 習
7	グループワーク発表、まとめ				講 義・演 習
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					
グループワーク演習評価					

授業科目	成人看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療施設で入院している成人に対する看護について理解する。					
2. 呼吸器・循環器・血液造血器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	肺がん患者の看護（病態、検査）			講 義	
2	肺がん患者の看護（治療、看護）			講 義	
3	COPDの患者の看護			講 義	
4	肺炎患者の看護			講 義	
5	間質性肺炎、誤嚥性肺炎患者の看護			講 義	
6	心不全患者の看護			講 義	
7	閉塞性動脈硬化症患者の看護			講 義	
8	虚血性心疾患患者の看護(狭心症)			講 義	
9	虚血性心疾患患者の看護(心筋梗塞)			講 義	
10	弁膜症患者の看護			講 義	
11	不整脈患者の看護			講 義	
12	貧血患者の看護			講 義	
13	白血病患者の看護			講 義	
14	悪性リンパ腫患者の看護			講 義	
15	輸血とその看護			講 義	
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血器 (医学書院)					
・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法Ⅲ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療施設で入院している成人に対する看護について理解する。					
2. 消化器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	胃十二指腸患者の看護(病態、検査)			講 義	
2	胃十二指腸患者の看護(治療、看護)			講 義	
3	食道がん患者の看護(病態、検査)			講 義	
4	食道がん患者の看護(治療、看護)			講 義	
5	肝炎患者の看護			講 義	
6	肝硬変患者の看護			講 義	
7	肝臓がん患者の看護(病態、検査)			講 義	
8	肝臓がん患者の看護(治療、看護)			講 義	
9	胆石症患者の看護			講 義	
10	膵炎患者の看護			講 義	
11	膵臓がん患者の看護			講 義	
12	潰瘍性大腸炎、クローン病患者の看護			講 義	
13	大腸がん患者の看護(病態)			講 義	
14	大腸がん患者の看護(検査、治療)			講 義	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 消化器 (医学書院)					
・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法Ⅳ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療施設で入院している成人に対する看護について理解する。					
2. 腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、女性生殖器系疾患患者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	腎・泌尿結石患者の看護			講 義	
2	前立腺肥大患者の看護			講 義	
3	前立腺がん患者の看護			講 義	
4	膀胱がん患者の看護			講 義	
5	腎がん患者の看護			講 義	
6	腎不全患者の看護			講 義	
7	甲状腺疾患患者の看護			講 義	
8	自己免疫疾患患者の看護			講 義	
9	糖尿病患者の看護(病態、検査)			講 義	
10	糖尿病患者の看護(治療、看護)			講 義	
11	乳がん患者の看護			講 義	
12	卵巣疾患患者の看護(卵巣がん)			講 義	
13	卵巣疾患患者の看護(炎症、嚢胞)			講 義	
14	子宮疾患患者の看護(子宮体がん、子宮頸がん)			講 義	
15	子宮疾患患者の看護(子宮筋腫)			講 義	
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 (医学書院)					
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 (医学書院)					
・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の方法V	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①学校事務長 ②③④⑤⑥⑦非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 国立病院機構が担う政策医療の内容と行われている看護の特徴を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	国立病院機構の役割と機能、今後の展望 国立病院機構における政策医療	講 義	①		
2	肺結核患者の看護(病態、検査、治療)	講 義	②		
3	結核患者の看護(看護) 結核に関わる関係法規	講 義			
4	重症心身障害児と法規	講 義	③		
5	重症心身障害児の看護	講 義			
6	重症筋無力症患者の看護	講 義			
7	筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の看護	講 義	④		
8	多系統萎縮症患者の看護	講 義			
9	パーキンソン病患者の看護	講 義			
10	筋ジストロフィー患者の看護(病態、検査)	講 義	⑤		
11	筋ジストロフィー患者の看護(治療、看護)	講 義			
12	がん患者の抱える苦痛	講 義	⑥		
13	がん患者の治療と看護 がん患者の社会参加への支援	講 義			
14	エイズ患者とその動向	講 義	⑦		
15	エイズ患者の看護	講 義			
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 成人看護学2・4・7・10 小児看護学					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	成人看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 成人期にある対象の身体的、精神・心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 成人期に起こりやすい健康問題を理解する。					
3. 成人期の健康の保持・増進、疾患の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	成人の理解とその対象の生活				講義
2	成人を取り巻く環境と生活からみた健康				講義
3	生活と健康をまもりはぐくむシステム(法律等)				講義
4	成人への看護アプローチの基本 (生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助、健康問題をもつ大人と看				講義
5	成人への看護アプローチの基本 (看護実践における倫理的判断、意思決定支援、家族支援)				講義
6	ヘルスプロモーションと看護				講義
7	健康をおびやかす要因と看護 生活の急激な破綻から回復を促す看護				講義
8	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 (健康の急激な破綻、急性期にある人の看護)(救急医療を必要とする				講義
9	慢性病との共存を支える看護 (患者の理解)(看護の実践)				講義
10	慢性病との共存を支える看護				講義
11	障害がある人の生活とリハビリテーション				講義
12	人生最期のときを支える看護 (最後のときを過ごしている人の理解)(医療の現状、看護)				講義
13	成人期にある対象を理解して健康保持・増進・疾病予防・健康回復への看護手段を考える(GW)				講義
14	成人期にある対象を理解して健康保持・増進・疾病予防・健康回復への看護手段を考える(発表)				講義
15	成人期にある対象を理解して健康保持・増進・疾病予防・健康回復への看護手段を考える(発表)				講義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 (医学書院)				国民衛生の動向	
【 評価方法 】					
筆記試験:90点		提出物・学習参加度など10点			

授業科目	老年看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 老年期にある対象の身体的・精神・心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 老年期に起こりやすい日常生活への影響について理解する。					
3. 老年期の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	I 高齢者の特徴 1.高齢者の生きてきた時代 2.高齢者の身体的特徴 1)老化のメカニズム 2)老化と加齢 3)身体的機能の加齢変化と日常生活への影響			講義・演習	
2	3.高齢者の知的機能・認知機能の特徴1)高齢者の知的機能・認知機能 2)知的機能・認知機能の加齢変化と日常生活への影響 4.高齢者の心理的特徴 5.高齢者のライフサイクルと発達課題 6.高齢者と家族			講義	
3	II 老年看護目標と役割 1.老年看護の対象としての高齢者の理解 2.老年看護のなりたち 3.老年看護の役割1)老年看護の特徴			講義	
4	3.老年看護の役割 2)老年看護実践の視点と役割(1)国際生活機能分類(ICF)(2)高齢者総合機能評価(3)日常生活動作(ADL)(4)手段的日常生活動作(IADL)(5)障害高齢者の日常生活動作度(寝たきり度)判定基準(6)要介護・要支援の認知と区分 3)老年看護の目標 4)老年看護の場と期待される役割(1)リロケーション(2)ケアインプレテス(3)エイジングインプレイス 4.老年看護の場と期待される役割1)ストレングスモデル2)ライフレビュー3)コンフォート理論4)高齢者の適応(1)サクセスエイジング			講義	
5	III 高齢者を取り巻く保健医療福祉 1.高齢者の生活1)高齢者の生活を考える視点2)高齢者と家族の状況3)高齢者の経済状況と住生活4)高齢者の生きがいと社会生活5)身体機能の低下による生活への影響6)認知機能の低下による生活への影響			講義	
6	2.高齢者を支える保健医療福祉制度 1)日本における保健医療福祉制度の変遷 2)介護保険制度 3)高齢者の生活を支える地域包括ケアシステム 4)後期高齢者医療制度 3.多職種連携による高齢者ケア			講義	
7	4.高齢者の権利擁護1)高齢者差別と権利擁護2)高齢者に対する虐待3)身体拘束4)高齢者の権利を守る制度			講義	
8	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院				新体系 看護学全書 老年看護学①老年看護学概論 老年保健 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の健康と障害 老年看護学①メディカ出版	
【評価方法】					
筆記試験 100点					

授業科目	老年看護の方法 I	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.高齢者が健康な生活を営むための看護の方法を習得する					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	I 高齢者の健康を支える看護 1.高齢者のヘルスプロモーション 1)高齢者の健康①高齢者体験(高齢者の身体の加齢変化・・・視覚、聴覚、姿勢と歩行)			講義・演習	
2	1.高齢者のヘルスプロモーション 2)高齢者の健康づくりに関する制度・法律 3)介護予防 4)認知症予防			講義	
3	1.高齢者のヘルスプロモーション 5)生活習慣病予防 6)服薬管理 2.セクシュアリティを考慮した看護 3.社会参加を促した看護			講義	
4	II 高齢者特有の症状と看護 1.寝たきり、廃用症候群と看護 1)寝たきりと廃用症候群の病態と要因 2)寝たきりと廃用症候群のアセスメント3)寝たきりと廃用症候群の看護			講義	
5	2.めまいと看護 3.脱水と看護 4.かゆみと看護 5.熱中症と看護 6.痛みと看護			講義	
6	III.高齢者に起こりやすい事故とリスクマネジメント 1.高齢者の医療事故の現状			講義	
7	2.高齢者に起こりやすい事故とリスクマネジメント 1)表皮剥離 2)転倒 3)窒息 4)火傷 5)溺死			講義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院				新体系 看護学全書 老年看護学①老年看護学概論 老年保健 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 高齢者看護の実践 老年看護学②メディカ出版	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験 100点					

授業科目	老年看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間	
講師名	①専任教員 ②非常勤講師			実務経験 有無	有	
【 科目目標 】						
1.医療施設で入院している高齢者と家族に対する看護について理解する。						
2.高齢者の健康状態に応じた援助の方法を理解する。						
【 内容 】						
回数	授業内容	授業方法	講師			
1	急性期の看護	講義	①			
2	回復期、慢性期、終末期の看護	講義				
3	脳・神経系 (認知症患者の看護)	講義	②			
4	脳・神経系 (認知症患者の看護)	講義				
5	脳・神経系 (脳血管障害患者の看護)	講義				
6	脳・神経系 (脳血管障害患者の看護)	講義				
7	骨格系 (骨粗鬆症、大腿骨頸部、転子部骨折の看護)	講義				
8	骨格系疾 (高齢者の骨折、牽引の看護)	講義				
9	骨格系 (変形性脊柱症と変形性膝関節症の看護)	講義				
10	骨格系 (関節リウマチの看護)	講義				
11	感覚器系 (褥瘡の看護)	講義				
12	感覚器系 (皮膚疾患のある高齢者の看護)	講義				
13	感覚器系 (耳鼻疾患のある患者の看護)	講義				
14	感覚器系 (眼疾患のある患者の看護)	講義		②		
15	高齢者の疾患の特徴(感染症)	講義				
	終了試験					
【 使用テキスト 】			【参考文献・紹介文献】			
老年看護学 病態・疾病論 成人看護学10(運動器) 成人看護学7(脳・神経) 成人看護学13(眼) 成人看護学14(耳鼻咽頭) 成人看護学12(皮膚)						
【 評価方法 】						
筆記試験 ①15点 ②85点						

授業科目	老年看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①専任教員 ②非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.高齢者と家族の特徴を把握し、高齢者の生活を支える援助を理解する。					
2.高齢者の看護を実践するために必要な技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	高齢者リハビリテーションの看護(概論、中枢神経系)	講義	①		
2	高齢者リハビリテーションの看護(慢性閉塞性肺疾患、虚血性心疾患)	講義			
3	高齢者リハビリテーションの看護(脳血管障害、骨折)	講義			
4	退院調整、退院支援	講義			
5	高齢者リハビリテーションの看護(摂食嚥下)	講義	②		
6	高齢者の特徴とアセスメントの基本 総合機能評価(CGA)	講義			
7	高齢者のフィジカルアセスメント	講義			
8	家族のアセスメント	講義			
9	保健医療福祉施設および居住施設における看護	講義			
10	治療、介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 種連携実践による活動	講義			
11	介護老人保健施設で生活する高齢者の看護 例展開(脳梗塞後遺症) オリエンテーション 記録用紙 1	講義			
12	介護老人保健施設で生活する高齢者の看護 例展開 紙 2・3	講義			
13	介護老人保健施設で生活する高齢者の看護 例展開 記録用紙 4・5	講義			
14	介護老人保健施設で生活する高齢者の看護 例展開 記録用紙 6 発表準備	講義			
15	介護老人保健施設で生活する高齢者の看護 表	講義			
	終了試験				
【 使用テキスト 】			【 参考文献・紹介文献 】		
老年看護学 医学書院			高齢者看護の実践 老年看護学② ナーシンググラフィカ		
【 評価方法 】					
筆記試験 70点					
実技試験 30点					

授業科目	小児看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 小児看護の特徴と小児の成長発達を理解する。					
2. 小児期の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 小児看護の特徴	1) 小児看護の特徴 ①子どもの特徴 ②小児期の区分		講 義	
2		2) 子どもの成長・発達 ①成長・発達の一般原則 ②成長・発達に影響する因子 ③成長・発達の評価		講 義	
3		3) 家族の特徴 ①家族の機能 ②現代家族の特徴 ③家族のアセスメント		講 義	
4		4) 子どもと家族の諸統計 ①人口構造 ②出生と家族 ③子どもの死亡		講 義	
5	2. 小児看護の役割	1) 小児看護の目標と役割		講 義	
6		2) 小児看護における倫理 3) 小児看護の課題		講 義	
7	3. 子どもと家族を取り巻く 保健・医療・福祉	1) 児童憲章 2) 児童福祉法 3) 児童虐待防止法 4) 児童(子ども)の権利に関する条約 5) 母子保健 6) 学校保健 7) 予防接種 8) 臓器移植法		講 義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
奈良間美保他: 系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院				授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の方法 I	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1 単位 15 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 小児期にある対象の身体的、精神・心理、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 小児期におこりやすい健康問題と看護を理解する。					
3. 小児は健康な生活を営むために必要な看護の方法を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 小児各期の特徴と起こりやすい健康問題 1) 小児各期の身体的特徴と起こりやすい健康問題			講義・演習	
2	2) 小児各期の精神・心理的特徴と起こりやすい健康問題 3) 小児各期の社会的特徴と起こりやすい健康問題			講義・演習	
3	2. 小児の栄養 1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 発達段階別の子どもの栄養の特徴			講義・演習	
4	(1) 乳児期 (2) 幼児期 (3) 学童期・思春期			講義・演習	
5	3. 小児各期の日常生活 1) 乳児期の養育および看護			講義	
6	2) 幼児期の養育および看護			講義	
7	3) 学童期・思春期の養育および看護			講義	
8	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院				講義の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	①専任教員 ②③④⑤⑥⑦⑧⑨非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療施設に入院している小児と家族に対する看護について理解する。					
2. 小児の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	1. 健康障害と入院が小児と家族に及ぼす影響	講義	①		
2	2. 健康障害をもつ小児とその家族に共通する看護 1)経過別看護 (1)急性期にある小児の看護 (2)周手術期の小児と看護 (3)慢性期にある小児の看護 (4)終末期の小児と家族の看護	講義			
3	2)生活制限のある小児と家族の看護 3)障害のある小児と家族の看護	講義			
4	3. 疾患の看護 1)先天異常の患児の看護	講義	②		
5	2)感染症患者の看護 3)呼吸器疾患患者の看護	講義			
6	4)血液疾患患児の看護	講義	③		
7	5)骨・筋系疾患	講義	④		
8	6)感覚器疾患患児の看護	講義			
9	7)神経疾患患児の看護	講義	⑤		
10	8)消化器疾患患児の看護	講義	⑥		
11		講義			
12	9)腎・泌尿器疾患患児の看護	講義	⑦		
13		講義			
14	10)代謝・内分泌疾患患児の看護	講義	⑧		
15	11)循環器疾患患児の看護	講義	⑨		
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
奈良間美保他:系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院、2015 :系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院				授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験(100点)					

授業科目	小児看護の展開技術	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1 単位 30 時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 成長・発達にふさわしい遊びを実践するために、健康な乳幼児の成長発達を理解し、その援助を考える。					
2. 医療施設内外での対象のニーズに応じた看護を実践するために必要な小児の看護技術を習得する。					
3. 医療施設に入院している小児と家族の健康上の問題を把握し、発達段階に応じた看護過程の展開技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	1. 小児看護に特有な看護技術 1) 子どものアセスメント (1) バイタルサイン測定 (2) 身体計測				講義・演習
2	(3) 小児のバイタルサイン測定、計測の実際				演習
3	2) 検査・処置を受ける子どもの看護 (1) 小児のプレパレーション (2) 抑制 (3) 検体採取				講義・演習
4	(4) 罨法 (5) 経管栄養 (6) 排泄 (7) 吸引				講義・演習
5	(8) 酸素療法 (9) 吸入 (10) 与薬 (11) 輸液管理 (12) 点滴の固定				
6	(13) 点滴静脈内注射を受ける子どもの看護の実際				演習
7	2. 乳幼児の発達段階に合わせた玩具の作成 1) 玩具製作				演習
8	2) 遊び方の工夫				演習
9	3. 救急救命処置が必要な子どもと家族への看護 1) 子どもの一次救命処置 2) 気道内異物除去法 3) 子どもの熱傷の特徴と処置 4) 溺水と処置				講義
10	4. 災害を受けた子どもと家族への看護 5. 虐待を受けている子どもと家族への看護				講義
11	6. 事例による看護過程の展開(気管支喘息)				演習
12					演習
13					演習
14					演習
15					演習
	終了試験				筆記試験
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
奈良間美保他: 系統看護学概論 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児看護学総論、医学書院 山元恵子: 写真でわかる小児看護技術アドバンス、インターメディカ				授業の中で適宜紹介	
【 評価方法 】					
筆記試験、玩具製作、看護過程課題、授業態度で総合的に評価する					

授業科目	母性看護学概論	時期	第1学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 母性看護の対象の身体的、心理的、社会的特徴を幅広く理解する。					
2. 母性看護の対象に起こりやすい健康問題を理解する。					
3. 母性看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復に関わる看護の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	母性看護の基礎となる概念 女性のライフサイクル、母性の発達・成熟・継承				講義
2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性保健統計からみた動向 看護に関する法律と施策				講義
3					
4	リプロダクティブヘルスケア ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・母性看護における倫理 ・避妊・性感染症				講義
5	母性看護の対象理解 ・性の分化・性周期とホルモン動態				講義
6	女性のライフステージ各期における看護 月経随伴症状 ・女性生殖器疾患 喫煙・飲酒・薬物				講義
7	女性のライフステージ各期における看護 更年期女性の特徴 ・更年期障害と看護				講義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
母性看護学① 母性看護学概論 医学書院					
国民衛生の動向					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	母性看護の方法 I	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 周産期における女性、胎児・新生児および家族の身体・心理・社会的特徴を理解し、それらに焦点をあてた母性看護の方法を習得する。					
2. 周産期における女性、胎児・新生児の健康保持・増進のための指導や相談、臨床的な看護技術を習得する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	妊娠期の身体的特性			講義	
2	妊娠期の心理・社会的特性			講義	
3	胎児の発育とその生理			講義	
4	妊婦と胎児のアセスメント			講義	
5	妊婦の日常生活に関するアセスメント			講義	
6	妊婦の観察および計測			講義・演習	
7	分娩の三要素			講義	
8	分娩経過			講義	
9	産婦・胎児・家族のアセスメント			講義	
10	分娩期の看護の実際			講義	
11	産褥経過、褥婦のアセスメント			講義	
12	褥婦と家族の看護、施設退院後の看護			講義・演習	
13	新生児の生理			講義	
14	新生児のアセスメント、新生児の看護			講義・演習	
15	終了試験				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
母性看護学① 母性看護学各論					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	母性看護の方法Ⅱ	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.妊娠、分娩、産褥期の異常と看護を理解する					
2.新生児の異常と看護を理解する					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	妊娠期の異常と看護① ハイリスク妊娠・ハイリスク妊婦の看護			講義	
2	妊娠期の異常と看護② 妊娠期の感染症			講義	
3	妊娠期の異常と看護③ 妊娠疾患			講義	
4	妊娠期の異常と看護④ 多胎妊娠 異所性妊娠(子宮外妊娠)			講義	
5	妊娠期の異常と看護⑤ 妊娠持続時間の異常			講義	
6	分娩期の異常と看護① 産道の異常 娩出力の異常			講義	
7	分娩期の異常と看護② 胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常			講義	
8	分娩期の異常と看護③ 胎児機能不全 分娩時の損傷			講義	
9	分娩期の異常と看護④ 分娩第3期および分娩直後の異常 分娩時異常出血 産科処置と産科手術			講義	
10	分娩期の異常と看護⑤ 異常のある産婦の看護 異常分娩時の産婦の看護 分娩時異常出血のある産婦の看護			講義	
11	産褥期の異常と看護① 子宮復古不全 産褥期の発熱 産褥血栓症 精神障害			講義	
12	産褥期の異常と看護② 異常のある褥婦の看護			講義	

13	新生児の異常と看護① 新生児仮死児 分娩外傷 低出生体重児	講義
14	新生児の異常と看護① 高ビリルビン血症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	講義
15	周産期医療	講義
	終了試験	
【使用テキスト】 系統看護学講座 専門II 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門II 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		【参考文献・紹介文献】 授業で随時紹介
【評価方法】 筆記試験 授業態度		

授業科目	母性看護の展開技術	時期	第2学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①専任教員 ②非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1.母性看護の対象に必要な看護技術を習得する					
2.問題解決技法を用いて健康状態に応じた看護の展開技術を習得する					
【 内容 】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	1. 患者教育	講義・演習	①		
2	1. 思春期 鉄欠乏性貧血、摂食障害、性感染症	講義・演習			
3	2. 成熟期 月経障害、性感染症、不妊症	講義・演習			
4	3. 更年期 更年期障害、骨粗鬆症、尿失禁、がん(子宮・乳・卵巣)	講義・演習			
5	4. 老年期 変形性膝関節症、動脈硬化症、認知症	講義・演習			
6	1. 妊娠期の看護技術 1)妊婦健康診査の介助と教育	講義・演習			
7	2. 分娩期の看護技術 1)産痛緩和法・マッサージ法 2)呼吸法 3)レオポルド触診法・児心音の聴取	講義・演習	②		
8	3. 産褥期の看護技術 1)悪露交換 2)子宮底測定 3)乳頭・乳房マッサージ 4)産褥体操	講義・演習			
9	4. 新生児期の看護技術 1)身体計測、時の抱き方、沐浴 2)児の抱き方 3)おむつ交換 4)産着の着脱 5)沐浴 6)黄疸の観察	講義・演習	①		
10	1. 正常褥婦の看護過程① ウェルネス思考とは	講義・演習			
11	1. 正常褥婦の看護過程② 事例展開の実際	講義・演習			
12	1. 正常褥婦の看護過程③ 事例展開の実際	講義・演習			
13	1. 正常褥婦の看護過程④ 事例展開の実際	講義・演習	①		
14	2. 切迫早産妊婦の看護過程	講義・演習	②		
15	3. 帝王切開術を受けた褥婦の看護過程	講義・演習			
終了試験					
【 使用テキスト 】 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 医学書院 新改訂写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ				【参考文献・紹介文献】 授業で随時紹介	
【 評価方法 】 筆記試験70% 技術試験30%					

授業科目	精神看護学概論	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【 科目目標 】					
1. 人間のこころの仕組みと働きを理解する。					
2. こころの発達過程と起こりやすい健康問題を理解する。					
3. 精神看護の対象の健康の保持・増進、疾病の予防健康の回復にかかわる看護師の役割を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	精神看護の対象 精神保健の考え方				講 義
2	人間の心の働きとパーソナリティー				講 義
3	人間の心の働きとパーソナリティー				講 義
4	関係のなかの人間				講 義
5	社会の中の精神障害				講 義
6	精神看護の役割 精神看護学とその課題				講 義
7	リエゾン精神看護				講 義
	終了試験				
【 使用テキスト 】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1、医学書院					
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験					

授業科目	精神看護の方法 I	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	無
【科目目標】					
1. こころの健康を保ち生活を営むために必要な看護の方法を理解する。					
【内容】					
回数	授業内容			授業方法	
1	ケアの人間関係 ケアの前提・ケアの原則・ケアの方法			講義	
2	関係をアセスメントする			講義	
3	プロセスレコードの共有			講義	
4	地域におけるケアと支援 1. 学校におけるメンタルヘルスと看護			講義/ GW	
5	地域におけるケアと支援 1. 学校におけるメンタルヘルスと看護 2. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護			講義	
6	災害時のメンタルヘルスと看護			講義	
7	看護における感情体験と看護師のメンタルヘルス 感情労働としての看護 看護における共感の光と影 感情労働の代償と社会 レジリエンスを高める			講義	
	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院					
【評価方法】					
筆記試験					

授業科目	精神看護の方法Ⅱ	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①②非常勤講師 ③専任教員			実務経験有無	有
【科目目標】					
1. 医療施設で入院している精神看護の対象に対する看護について理解する。					
2. 精神看護の対象の健康状態に応じた援助の方法を理解する。					
【内容】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	患者一看護師関係における感情体験	講義	③		
2	安全をまもる 1. リスクマネジメントの考え方と方法	講義			
3	安全をまもる 2. 緊急事態に対処する	講義			
4	身体をケアする 1. 精神科における身体のケア	講義			
5	身体をケアする 2. 精神科における身体ケアを通じた看護ケアの実際	講義			
6	身体をケアする 3. 精神科の治療に伴う身体ケアと身体合併のアセスメントケア	講義			
7	回復を支援する 1. 回復の意味 2. リカバリーのビジョン	講義	①		
8	3. 治療におけるリカバリーの試みと看護の視点 4. リカバリーを促す環境 5. リカバリーを促す方法としてのグループ	講義			
9	入院治療の意味 1. 精神科を受診すること 2. 治療の器としての病院・病棟 P212～	講義			
10	3. 治療的環境としての病棟 4. 入院中の観察とアセスメント 5. ケアの方向性を考える	講義			
11	6. 退院に向けての支援とその実際	講義			
12	地域におけるケアと支援 1. 器としての地域	講義	②		
13	2. 地域における生活支援 3. 地域におけるケアの方法と実際	講義			
14	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 1. リエゾンナースの活動と実際 ①精神疾患をもつ患者が一般病棟で治療を受けるとき ②術後の患者にせん妄がみられるとき ③痛みのために「死にたい」と訴えているとき ④怒りで患者がチームを分裂させるとき	講義	①		
15		講義			
	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院					
【評価方法】筆記試験					

授業科目	精神看護の展開技術	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	①非常勤講師 ②専任教員			実務経験有無	有
【科目目標】					
1. 患者一看護師関係の成立と発展過程、自己洞察の方法を理解する					
2. 精神看護の対象の健康を守るための現在の保健・医療・福祉システムの問題点を把握し、看護に求められる役割を理解する。					
3. 問題解決技法を用いて、精神疾患患者の看護過程の展開技術を習得する。					
【内容】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1	精神看護と看護理論	講義	①		
2	精神症状のある患者への看護①	講義			
3	精神症状のある患者への看護②	講義			
4	精神症状のある患者への看護③	講義			
5	精神障害者の社会復帰(GW)	講義・GW			
6	SSTとは	講義・演習			
7	まとめ	講義			
8	統合失調症患者の事例による看護過程の展開 オリエンテーション	講義	②		
9		GW			
10		GW			
11		GW			
12		GW			
13		GW			
14		GW			
15	GW発表				
	終了試験				
【使用テキスト】				【参考文献・紹介文献】	
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2、医学書院 精神看護の展開 第5版 医学書院					
【評価方法】					
聴講態度、筆記試験、提出物					

授業科目	看護管理	時期	第3学年 第1学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。					
2. 国際社会における健康と看護の動向を理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	講師
1	1) 看護におけるマネジメント 2) ケアのマネジメント (1) 看護基準と看護手順 (2) 安全管理 (3) 看護ケア提供システム (4) 他職種との協働 (5) 情報の管理			講 義	
2	3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護ケア提供システムと看護単位 (2) 看護単位の機能と特徴 (3) 人事労務管理 (4) 労使関係管理 (5) 物的資源管理 (6) 情報のマネジメント (7) 看護職員のキャリア開発 (8) 安全管理 (9) サービスの評価			講 義	①
3	4) マネジメントに必要な知識と技術 (1) マネジメントとは (2) 組織とマネジメント (3) リーダーシップとマネジメント (4) 組織の調整 (5) エンパワメント (6) コンフリクト (7) 変化と変革 5) 看護を取り巻く諸制度 (1) 看護の定義 (2) 看護職 (3) 医療制度 (4) 看護政策と制度			講 義	
4・5	2. 感染管理 1) 感染の危険を伴う病原体への暴露 2) 医療機器・機材の使用に関わるもの 3) 医療品への暴露			講 義	②
6・7	4. 国際看護 1) 国際看護学の概念・目的 2) 国際看護活動の支援を必要とする対象 3) 国際看護活動を推進する人と機関 4) 国際看護活動の展開プロセス 5) 異文化理解と国際看護活動 6) 国際看護活動の実際			講義・演習	③
	終了試験				
【 使用テキスト 】 浦田喜久子:看護の統合と実践{1}看護管理{3}災害看護学・国際看護学, 医学書院				【参考文献・紹介文献】	
【 評価方法 】 筆記試験100点					

授業科目	災害看護	時期	第3学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【科目目標】					
1. 災害時における人々の健康を支えるために必要な基礎的知識と看護師の役割を理解する。					
【内容】					
回数	授業内容	授業方法	講師		
1・2・3	1. 災害看護の基礎的知識 1) 災害医療について (1) 災害の定義 (2) 災害の種類と健康障害 (3) 災害医療の特徴 (4) 災害と情報 (5) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 (6) 災害と法 (7) 国内の救助活動の現状と課題 2) 災害看護について (1) 災害看護の定義と役割 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴と看護活動 3. 地震災害看護の展開 (1) 発災直後から出動までの看護 (2) 急性期の看護 (3) 亜急性期の看護	講義	①		
4・5・6・7	2. 防災と災害時対応 1) 心肺蘇生法(BLS) ・普通救命講習Ⅱ(心肺蘇生法、AED使用法、止血法、異物除去、試験(筆記・実技)) 2) 防災体験 ・地震体験・煙体験・119番通報体験・消火体験 防災ビデオ	講義・演習	②救急救命士 ③消防隊員		
	終了試験				
【使用テキスト】			【参考文献・紹介文献】		
浦田喜久子:看護の統合と実践{3}災害看護学・国際看護学 医学書院					
【評価方法】					
筆記試験100点					

2023年度

授業科目	医療安全	時期	第2学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 15時間
講師名	非常勤講師			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. 医療安全とその取り組みについて理解する。					
【 内容 】					
回数	授業内容			授業方法	
1	1. 医療安全 1) 医療安全と看護の責務 2) 看護事故の構造 3) 看護事故防止の考え方			講 義	
2・3	2. 診療補助の事故防止 1) 患者に投与する業務における事故防止 (1) 業務特性 (2) 注射業務 (3) 輸血業務 (4) 内服与薬業務 (5) 経管栄養(注入)業務 2) 持続中の危険な医療行為の観察管理における事故防止 (1) チューブ管理			講 義	
4	3. 療養上の世話の事故防止 1) 療養上の世話の事故 2) 転倒転落事故 3) 摂食・異食事故 4) 入浴中の事故 4. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 5. 医療安全とコミュニケーション			講 義	
5	6. 看護師の労働安全衛生上の事故防止 (1) 事故分析 7. 組織的な安全管理体制への取り組み			講 義	
6・7	8. 事例分析(演習) ヒヤリハット分析など			講義・演習	
終了試験					
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
浦田喜久子:看護の統合と実践{2}医療安全, 医学書院					
【 評価方法 】					
筆記試験100点					

授業科目	臨床看護の実践	時期	第3学年 第2学期	単位数 (時間数)	1単位 30時間
講師名	専任教員			実務経験 有無	有
【 科目目標 】					
1. チームの一員として行動する必要性を理解する。					
2. 複数の患者を受け持ち、多重課題の対応を考えることができる。					
3. 自己の看護実践能力に応じ、チームメンバーと連携しながら、状況に応じた看護を 実践できる。					
4. 臨床に近い状況において看護技術を実施できる。					
【 内容 】					
回数	授業内容				授業方法
1	チームとは チームに必要な要素				講義
2	業務遂行のためのマネジメント 複数患者を受け持つということ				講義
3	多重課題とは、多重課題対処の原則 「多重課題1」①看護ケア提供システムについて学習				講義・GW
4	「多重課題1」②複数患者の把握 ③看護計画立案				GW
5	「多重課題1」④受け持ち患者の情報整理 ⑤受け持ち決定				GW
6	「多重課題1」⑥タイムスケジュール作成				GW
7	「多重課題1」⑦シナリオ作成				GW
8	「多重課題1」⑧シミュレーション準備				GW
9	「多重課題1」シミュレーション				演習
10	「多重課題1」シミュレーション				演習
11	「多重課題1」振り返り				全体討議
12	「多重課題1」学んだことのまとめ・実習に向けての課題				GW
13	卒業時に到達すべき看護技術の評価				演習
14	卒業時に到達すべき看護技術の評価				演習
15	卒業時に到達すべき看護技術の評価				演習
	修了試験(45分)				
【 使用テキスト 】				【 参考文献・紹介文献 】	
医学書院 系統看護学講座 統合分野 看護管理					
【 評価方法 】					
①GWの取り組み…個人評価					
②多重課題1シミュレーション…グループ評価					
③筆記試験					